

II 試験研究の推進

1 研究活動の概要

岩手県では、平成 21 年度から平成 30 年度までの 10 年間の計画となる「いわて県民計画」を平成 21 年 12 月に策定した。この「いわて県民計画」に基づき、農林水産部では、農林水産分野の長期的な技術開発の方針として『農林水産技術立県いわて』技術開発基本方針（以下「技術開発基本方針」という。）を策定した（平成 22 年 3 月）。

技術開発基本方針に基づき、農業研究センターでは平成 26 年度までに取り組む具体的なアクションプラン「岩手県農業研究センター試験研究推進計画」を策定した（平成 22 年 3 月、平成 24 年 3 月研究期間を 30 年度まで延長し改訂）。

技術開発基本方針の 6 つの農業技術開発の方向に即し、17 分野 50 の取組により、安全・安心で高品質な農畜産物を効率的・安定的に生産するための高度な技術の開発を進め、「農林水産技術立県いわて」の確立に取り組んでいる。

平成 26 年度の試験研究にあたっては、以下の 3 つの基本方針に沿って、新規 17、継続 108、合計 125（小課題数ベースで、分野を重複する小課題はカウントしている）の研究課題に取り組んだ。

1 顧客の視点に立った試験研究等業務の着実な推進

- ・所得向上につながる普及性の高い技術開発
- ・産地づくりをリードする革新的な技術開発など

2 プロジェクト研究の推進によるスピーディーな課題解決

- ・課題設定から普及定着まで、研究、行政、普及、地域が一体的に推進
- ・連携軸強化による効率的・効果的かつ戦略的な技術開発

3 情報発信の強化による県民への業務の「見える化」の推進

- ・知的財産の実用化促進
- ・研究成果活用・PR 強化

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災等への対応として設置した「震災復旧・復興支援プロジェクトチーム」を「震災復興加速プロジェクトチーム」に改組し（平成 25 年 7 月 1 日）、沿岸地域における復興に向けた技術的、経営的ニーズへの積極的対応、実証試験を通じた技術の導入・開発に取り組んだ。

また、「放射性物質に係る農業技術対策調査検討チーム」では、「県産農林水産物の放射性物質濃度の検査計画」に基づく検査及び市町村等からの依頼による検査を行うとともに、放射性セシウム除染効果の検証を行った。

県独自予算の研究に加え、競争的資金等の活用や産学官連携による共同研究を推進し、農産部門で 25 課題（うち新規 4 課題）、畜産部門で 5 課題（うち新規 1 課題）、合計 30 課題の共同研究に取り組んだ。中でも、農林水産技術会議の「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の「中山間地域における施設園芸技術の実証研究」並びに「ブランド化を促進する農産物の生産・加工技術の実証研究」の「果樹類」及び「野菜類」の 3 課題については代表機関として、また、共同研究機関として「中小区画土地利用型営農技術の実証研究」に取り組んだ。

産学官連携では、水稻、小麦及び大豆で実需者や加工業者等との情報交換会を開催するとともに、いわて産学官連携フォーラム等に出展して研究成果を積極的に PR し、新たなニーズの掘り起こしを行った。

知的財産では、「キビ岩手糯 1 号」を品種登録出願した。

新たな黒毛和種基幹種雄牛として「緑乃大地」（みどりのだいち）、「山根雲」（やまねぐも）の 2 頭を指定した。

本年度の試験研究から得られた成果は、内部及び外部（試験研究推進アドバイザー・生産者等）の評価を経て、60 の研究成果（普及区分 12、指導区分 33、行政区分 11、研究区分 4）にとりまとめ公表した。

平成 24 年度に設置した機関評価委員会を、10 月 23 日に陸前高田市の南部園芸研究室を会場として開催し、昨年度の評価意見に対応した本年度の取組状況や試験研究の進捗状況等を報告するとともに、試験研究全般に関し意見交換を行った。

2 トピックス

(1) 特許・品種登録出願状況

区分	出願・登録内容	担当
特許	(該当なし)	—
種苗 登録	水稻 岩手 117 号【出願番号 30039、登録出願 2015/3/26】 ・極良食味かつ低コスト栽培が可能な主食用品種の育成母本	技術部 作物研究室
	りんどう いわて LB-3 号【出願番号 29679、登録出願 2014/10/29】 ・9 月上旬咲きの切り花用青色品種	技術部 野菜花き研究室
	同 いわて LB-4 号【出願番号 29680、登録出願 2014/10/29】 ・9 月上～中旬咲きの切り花用青色品種	

(2) 表彰等受賞状況

ア 植物調節剤功労者表彰

環境部 多田勝郎環境部長が岩手県における水稻の除草剤および植物調節剤研究の実施並びに指導に当たり、除草剤の適正利用に貢献したとして、公益社団法人日本植物調節剤研究会より表彰を受けた(平成 26 年 12 月 12 日)。

当表彰は植物調節剤に関する検査・検定、研究開発及び普及啓発に長年にわたり顕著な功績を挙げた者に贈られるものである。

イ 第 7 回北日本病害虫研究会賞 研究論文部門 病害分野

病理昆虫研究室 岩館康哉主任専門研究員(現農業普及技術課)の論文「キュウリホモプシス根腐病に対するクロルピクリンくん蒸剤を用いた深層土壌くん蒸処理の防除効果」が、優れた論文として評価され、第 7 回北日本病害虫研究会賞 研究論文部門 病害分野を受賞した(平成 27 年 2 月 19 日)。

なお、本研究会は、病害虫防除並びに農業に関する知識の向上および普及を図り北日本の農業の発達に寄与することを目的とし、北海道および東北 6 県の研究者等からなる組織であり、当表彰は、会員を対象として、毎年、優れた論文の執筆者等に贈られるものである。

ウ 平成 26 年度事績顕著者表彰

県北農業研究所の日山千代司運転技士兼技能員は、昭和 50 年 4 月 1 日に岩手県立農業試験場県北分場に技能員として採用されて以来、39 年間にわたり研鑽を重ね、農作業技術に精通し、試験研究の推進を通じて本県農業の振興に大いに寄与するとともに、熱心に若手職員の指導・育成に努めてきた。その功績により、平成 26 年 10 月 29 日に事績顕著者として表彰を受けた。

エ 植物調節剤功労者表彰

及川一也県北農業研究所長は、昭和 59 年に岩手県立農業試験場県北分場勤務時に水稻成長調整剤適用性試験担当となり、以来、二十数年にわたり植物調整剤に関する検査・検定、研究開発及び普及啓発に取り組んできた。その功績により、平成 26 年 12 月 12 日に公益財団法人日本植物調節剤研究協会から植物調節剤功労者表彰を受けた。

(3) 特定課題調査検討チームによる検討及び連携プロジェクトによる研究推進

ア 特定課題検討チーム*

なし

(*多岐にわたる課題あるいは今後重要と見込まれる事項について研究的観点から検討するチーム)

イ 連携プロジェクト**

(**多岐の研究部門にまたがる研究課題を短期間に、効率よく解決するために編成するプロジェクト)

(ア)プロジェクト名及び構成

分野	プロジェクト名	研究内容	チーム員	協力
個別課題解決	リンドウこぶ症連携プロジェクト [H21～]	◎リンドウこぶ症対策に係る試験研究	環境部 技術部	・(公財)岩手生物工学研究センター ・中央農業改良普及センター
	水稻種子病害対策連携プロジェクト [H24～]	◎水稻細菌病類を主体とした種子伝染性病害防除対策に係る試験研究並びに指導機関と連携した技術対応	環境部 技術部	・病害虫防除所 ・中央農業改良普及センター

(イ)取組概要

名称	検討内容	検討結果
リンドウこぶ症	りんどうこぶ症関連ウイルス(GKaV)の伝搬経路を探索し、こぶ症の発生原因を解明するため、連携プロジェクトを継続。GKaVの病原性について研究を進めている生工研とも連携を図る。 ○第1回チーム会議(H26.6.24)	○新規課題「りんどうこぶ症関連ウイルス(GKaV)の伝搬経路の探索(H25-27:県単)」の実施計画の確認 ○生工研の共同研究課題「先端的かつ岩手県独自の病害診断システムの構築に向けた基礎技術の開発」の実施計画の確認
水稻種子病害対策	新規課題の進捗状況確認 ○第1回チーム会議(H26.6.16) ○第2回チーム会議(H27.3.10)	○第1回チーム会議 本年度の試験計画の確認 育苗センター等巡回結果の情報共有 ○第2回チーム会議 本年度実施した試験結果の検討 次年度研究計画の検討 本年産種子の保菌状況調査結果の共有

ウ 復興加速プロジェクトチーム

平成23年3月11日に発生した東日本大地震津波で甚大な被害を被った沿岸地域の農業の復旧・復興に向けた具体的な技術支援対策を実施するため設置した「震災復旧・復興支援プロジェクトチーム」を「復興加速プロジェクトチーム」に発展改組し(平成25年7月1日)、農林水産省の委託研究予算(食料生産地域再生のための先端技術展開事業、農林水産省委託、平成25～29年度)を獲得して、復興に資する大規模な実証研究を開始した。

この実証研究は、地域の特徴に合わせた営農技術の実用化並びに経営の姿を6つの経営体における実証を通じて明らかにするものである。農商工連携や観光と結びついた高付加価値化、素材の科学的な評価や新品種を基にしたブランド化、地域の木質資源やICT技術を駆使した低コスト生産技術などを経営面からも評価しつつ総合的に組み立てて普及定着を図っていく内容で、県内外の民間企業・大学・研究機関28機関が取り組んでいる。さらに、沿岸広域振興局、大船渡農業改良普及センター及び中央農業改良普及センターが普及支援組織として協力している。

平成26年度は開始2年目となり、引き続き幅広い取り組みが展開され、課題によっては一定の研究成果が得られているものの、完成された実用成果を示すことはできなかったが、木骨ハウスなど実規模の低コスト施設の建造、有望な野菜品目の地域適応性の検討、りんご早期成園化のためのフェザー苗養成技術や北限のユズ栽培の実証、土地利用型作物の適品種の選定、小型汎用コンバインを核とする低コスト栽培技術の実証など、非常に幅広い取り組みを展開した。また、農業経営面でも沿岸被災地におけるビジネスモデルの構築に向け、実証経営体の総合的な分析評価やコンサルティングを実施した。

3 研究室・課の動き

(1)プロジェクト推進室

水稻の湛水直播栽培安定多収技術の開発、及び水田転換畑における大豆の安定多収を実現する新技術等の開発を行い、これらを軸に、土地利用型作物の低コスト生産技術の確立と体系化に取り組んだ。また、沿岸南部地域において「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」を実施し、沿岸地域農業の復興支援に取り組んだ。

業務推進にあたっては、競争力・社会貢献力のある技術シーズの開発を目指し、現地実証試験やビジネスパートナーとのコミュニケーションの強化によって、生産現場に即した技術の実用化を図った。

<水稻直播栽培の安定多収技術の開発>

県内で急速に普及拡大している水稻鉄コーティング湛水直播栽培技術について、安定多収のための品種毎の目標生育量や栽培管理方法を明らかにした(研究成果:指導区分 水稻品種「あきたこまち」の鉄コーティング湛水直播栽培における安定生産のための期待生育量。指導区分 水稻品種「どんぴしゃり」の鉄コーティング湛水栽培技術における安定生産のための期待生育量。指導区分 飼料用米「つぶみのり」の鉄コーティング湛水直播栽培における安定生産のための栽培管理)。

また、鉄コーティング種子を効率的に作成できる酸化調製機の特徴と活用方法を取りまとめ、作業体系を提示した(研究成果:指導区分 酸化調製機(50 kgタイプ)を活用した水稻鉄コーティング種子作製の効率的作業体系)。

<水田大豆の多収、低コスト技術の開発>

水田転換畑における大豆の生産性向上技術の体系化を図り、センター内及び現地(矢巾町、陸前高田市)において総合実証を実施して全刈収量 300 kg/10a の目標を達成した。また、開発した技術体系の経営評価を行い導入条件も明らかにした(研究成果:普及区分 ディスク式畑用中耕除草機を活用した大豆の一貫栽培体系)。

<食料生産地域再生のための先端技術展開事業>

「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」(中小区画土地利用型営農技術の実証研究)(代表機関:(独)東北農業研究センター)に参画し、東日本大震災からの早期復興をねらいとして、土地利用型作物の低コスト・省力・安定生産技術の実証試験を実施した。陸前高田市において水稻直播栽培技術、大豆小畦立て播種栽培技術、畦畔法面管理の省力化技術、大槌町においてソバ・ナタネの畦立て播種栽培技術を実証した。また、これらの3種の作物を1台の小型汎用コンバインで収穫する技術の実証試験を実施した。

畦畔法面管理技術の実証では、法面被覆に用いるイブキジャコウソウの効率的な育苗・定植方法を確立した(研究成果:指導区分 イブキジャコウソウの効率的な育苗・定植方法)。また、水稻直播実証結果及び大豆実証結果については、前述の各研究成果の取りまとめに活用し、沿岸地域での技術適用についても明らかにした。

(2)企画管理部

研究企画室

農業試験研究のアクションプランである「農業研究センター試験研究推進計画」に基づき、研究員の円滑な試験研究の支援、生産者や県民に開かれた農業研究センターを目指し、以下の事項について重点的に取り組んだ。

<顧客視点の試験研究の推進>

顧客のニーズに対応した試験研究を推進するため、中央普及センターとの作物別連携会議や現地検討会などを通じて顧客である農業者等のニーズの把握に努めた。

試験研究推進計画については、平成26年度の研究実績を踏まえ、3月に行程表を見直した。

試験研究推進の仕組みについては、研究課題の収集方法や研究成果の追跡評価方法を見直すとともに、平成23年度に制度化した試験研究推進アドバイザーを研究会議において活用し、顧客目線での助言を得た。

センター運営や試験研究推進に対する外部評価を得るため設置した機関評価委員会を南部園芸研究室において10月23日に開催した。食料生産地域再生のための先端技術展開事業の果樹と施設園芸の現地実証の状況を見学した後、昨年度の評価意見への対応状況や試験研究に関し、質疑と意見交換を行った。

平成25年度から実施している食料生産地域再生のための先端技術展開事業を適正に執行するため、職員に対して研究資金等の事務手続きや経理事務研修を行った。

また、競争的研究資金等への応募のため、資金情報の提供や研究計画作成への助言を行うとともに、共同研究を推進

するため、いわて産学官連携フォーラムへ出展し、研究シーズを大学・企業等へ紹介した。

<アウトカムを意識した研究成果の普及と情報発信>

研究センターの業務内容や研究成果の周知を図るため、マスコミへのプレスリリースやホームページにより積極的な情報発信を行なった。プレスリリースは年間22回(前年36回)行い、マスコミでの報道件数は62件(前年82件)であった。ホームページでは年間430万件(前年447万件)の閲覧数があり、また、研究活動の現在(いま)を分かり易く伝える「らぼ・れたあ」をメールやホームページにより年間61件(前年111件)発信した。さらに、Twitterによる情報発信では、ホームページの更新情報を中心にツイート数586回、フォロワー増加数217名、同じくFacebookでは投稿数176回、いいね!増加数70名であった。

センターを一般に開放する参観デーや一日子供農業研究員を開催した。

参観デーは9月5~6日に開催し、来場者数は約2,500名と前年並みであった。また、一日農業研究員は8月1日に岩手県立大学の辻盛生准教授を講師に「農業ふれあい公園内にある『ひょうたん池』に生息する生き物の調査」として開催し、北上市及び花巻市の小学生17名が参加した。果樹用農薬飛散制御型防除機に関する現地セミナーを独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センターと共同開催するとともに、農業における放射性物質対策技術研修会を開催した。また、震災被災地である陸前高田市でいちごの高設栽培技術を紹介する現地ふれあい農業研究センターを開催し、研究最終年度となった非主食用稲の直播技術等の研究成果に関する公開シンポジウムを青森市及び盛岡市で開催した。

<専門知識と技術を有する人材育成>

研究員の資質向上については、「農業研究センター研究員育成プログラム」(平成19年3月策定)に基づき、センター研究員研修計画を策定した。この研修計画にもとづき、依頼研究員等(3名)に研究員を派遣するとともに、可能性(FS)調査に2件2名を派遣した。また、北東北三県研究職員交流では、秋田県から2名を受け入れた。

予算管理面では、経理事務検討チームにより構築した「新たな予算の執行管理システム」を運用して、予算管理を行うとともに、「不正防止計画」に基づいたモニタリングと内部監査の実施により適正な経理事務を支援した。また、研究備品の更新計画をローリングした。

農業経営研究室

東日本大震災被災地支援に係る2課題と、技術体系作成に係る1課題を柱として研究を進めるとともに、次年度から予定している「水田農業における地域営農システム」の研究課題について事前調査及び研究計画作成に取り組んだ。

<地域特性を活かした収益性の高い農業経営モデルの提示>

陸前高田市で導入する大規模施設園芸の計画立案の支援を中心に、沿岸地域の地域特性を検討した。

<開発技術の経営的評価による効率的な研究推進>

食料生産地域再生のための先端技術展開事業による実証研究より、技術係数・経営係数を抽出し、4つの技術体系(水稲主食用米・移植、水稲飼料用米・直播、大豆、イチゴ)を作成した。

<営農計画作成支援情報の提供>

行政側からの要請に応じて、飼料用米8体系及びWCS4体系を作成し、併せて、主食用米5体系、水稲受託3体系の見直しを行い、行政区分の試験研究成果とした。これらは農業基盤強化促進に係る基本方針の公布とともに、2015年版岩手県生産技術体系の一部として公表される予定である。

(3)技術部

果樹研究室

果樹研究室は、リンゴを主体に、ブドウ、西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。特に、早生から晩生までを網羅するオリジナルりんご品種の開発を掲げ、「つがる」に代わる早生品種と「ふじ」に匹敵する晩生種を開発を重点課題としている。また、温暖化等によるリスクの解消、軽減を図るため、凍霜害、裂果等の対策技術の開発に努めるとともに、軽労化につながる栽培技術の開発に向けた課題を実施している。

加えて、東日本大地震津波による被害地域の復興を目的とした、国庫委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」により、リンゴ、ユズ、ブドウの生産・加工技術の実証研究として、センター内の他、陸前高田市に実証圃場を設置す

るなどし、被災地復興支援に取り組んでいる。

以上の取り組みから、今年度は以下の6つの研究成果を公表した。

- (1) リンゴ JM7 台木の1年生苗木を不織布ポットに移植し、新梢伸長期からベンジルアミノプリン液剤を10～15日間隔で散布することにより、定植当年から結実可能な2年生苗木が育成できることを明らかにした。
- (2) リンゴ「岩手4号」は11月中旬に収穫される赤色品種である。樹姿は中間性、樹勢は弱程度、果皮を被う色は濃赤色から暗赤色で着色良好である。ふじよりやや小玉で甘みが強く、みつも入り食味良好であり、日持ちは普通冷蔵で5か月程度と貯蔵性に優れることを明らかにした。
- (3) カシスの収穫方法は、房全体の黒粒割合が75%以上になった時に一斉収穫を行うことで、選り収穫より省力的であり、果実品質も同等である。初期収量性、糖度、抗酸化能(ORAC 値)、果汁色から判断すると、品種「ボスクープジャイアント」が優良であり、「サレック」は「ボスクープジャイアント」と収穫期ピークが異なるため、収穫期分散化を狙う上で有望であることを明らかにした。
- (4) りんごわい性台樹における夏期の薬剤散布では、ナミハダニ、輪紋病、炭疽病に対しては、夏期の薬剤散布量を550L/10aから400L/10aに削減しても同等の防除効果が認められるが、すす斑病に対しては9月上中旬が高温多雨の場合や樹体の繁茂程度が高く葉液到達性が劣る樹では、防除効果が劣ることがあることを明らかにした。
- (5) りんご品種「高野1号(商標登録名:紅ロマン)」は8月下旬に収穫される極早生の赤色品種である。甘酸適和で食味良好な品種で、高温下でも着色するため、着色管理が容易であることを明らかにした。
- (6) りんご「シナノゴールド」の越年出荷に向く収穫時期の判断基準は、満開後日数150～160日、ヨード反応指数1以上であり、4℃の冷蔵条件下で貯蔵した場合、収穫後4ヶ月まで貯蔵可能であることを明らかにした。

作物研究室

<水稲育種チーム>

(水稲品種)

水稲の奨励品種決定調査では、本調査において粳6系統、糯1系統を供試し、現地調査では粳を12か所、糯を1か所で検討した。「品種 食味、栽培特性(耐冷性・耐病性・耐倒伏性)に優れる中生粳水稲「岩手107号」を水稲奨励品種に提案した(普-02)。27年度の本調査に、粳の早生で「岩手106号」、「ふ系242号」、中生で「秋田114号」、「岩手113号」、晩生で「岩手111号」、「福島38号」、「岩手118号」、糯で「ふ系糯234号」、非主食用で「青系192号」、「岩手109号」を供試する(試験研究成果書(行-02)、(行-03))。

(水稲育種)

いわてブランド米品種開発推進事業に取り組んでいる。生産力検定本試験から、生育・収量調査および各種特性検定試験の結果に基づき、「岩手118号」(晩生の中、極良食味)、「岩手119号」(早生の晩、多収、耐冷極強)、「岩手120号」(中生の早、良食味、良質、多収)、「岩手121号」(晩生の中、良食味、良質、多収、葉いもち極強)、「岩手122号」(飼料用、早生の晩、耐倒伏性強、いもち極強)の系統を選抜した(行-01)(行-04)。

平成23～26年度農林水産省委託プロジェクトの「国産飼料(1系)コンソーシアム」の構成員として委託課題「11002c 多収でいもち病抵抗性・耐冷性・識別性を有する飼料用米品種の育成(東北地域中北部向けのいもち病抵抗性評価と多収性飼料用米系統の選抜)」に取り組み、本年度の「岩手122号」(前出)を配布系統とした。

また、(公財)岩手生物工学研究センターと連携し、分子マーカーを用いた選抜に取り組んでいる。生工研を代表機関として共同課題農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「ひとめぼれゲノム資源を活用した重要遺伝子同定と実用品種育成」において、極良食味、高度いもち病抵抗性、初期伸長性、耐倒伏性を導入しDNAマーカー選抜した「岩手117号」を育成し、中間母本としての活用することとした(研-01)。

<作物栽培・種子チーム>

水稲・畑作物(麦類・大豆)栽培試験、品種選定、作柄解析、主要農作物(水稲・小麦・大麦・大豆)原種・原々種生産に取り組んでいる。

(水稲栽培)

作況調査・作柄解析については、所内の作況試験データ(本部および県北研究所)・現地生育データ(農業改良普及センター)・気象データ(盛岡地方気象台)・土壌栄養(生産環境研究室)・病害虫(病理昆虫研究室)・作柄(東北農政局)・品質情報(同)を総合的に解析し、次年度以降の技術対策指導に供した(指-04)。

(麦類)

麦類奨励品種決定調査では、小麦6系統、大麦4系統を供試した。小麦では「超強力小麦「銀河のちから」の加工特性を引き出す後期窒素追肥法」を研究成果(普-03)としてとりまとめた。

特性検定では、麦類耐寒雪性を(独)作物研究所からの請け負いで実施した。小麦および大麦をそれぞれ 64、43 品種・系統を供試した。

(大豆)

大豆奨励品種決定調査では、3 系統を供試した。

農林水産省委託プロジェクトの「実需者等のニーズに応じた加工適性と広域適応性を持つ大豆品種等の開発」(ハリュープロ(大豆))において、晩播密植栽培による大規模現地試験として無限伸育型の東北 175 号と刈系 875 号及び有限伸育型の刈系 882 号と刈系 883 号を供試した。また立枯性病害抵抗性検定試験には、育成系統 23 系統、参考 12 品種・系統を供試した。

(種子生産)

水稻種子生産(主要品種)では、原々種はうるち 3 品種 97kg、もち 2 品種 56kg、原種はうるち 7 品種 19,251kg、もち 2 品種 1,663kg を生産した。

小麦では、原種は「ナンブコムギ」を 4,180kg、「ゆきちから」を 2,820kg 生産した。大豆原々種は「シウリュウ」を 47kg、原種は 3 品種 4,100kg 生産した。また、小豆の原々種 1 品種 47kg 生産した。

野菜花き研究室

野菜花き研究室では、「農林水産技術立県いわて」の確立のため、以下の基本方針に沿って野菜および花きの 2 チーム体制で試験研究に取り組んでいる。(1) 顧客の視点に立った園芸品目の省力・低コスト生産技術の開発、(2)消費ニーズ及び将来の動向を見越した本県に適する花き(リンドウ)新品種の選抜・育成、(3)生産の安定に直結する優良な原種苗等の正確かつ安定的な供給

<野菜チーム>

野菜は、「主要野菜の収益性を向上する革新技術、高付加価値化技術の開発」を推進するため、果菜類では、雨よけトマトの草勢管理技術、抵抗性台木を用いたピーマンの安定生産技術、国内生産量がほとんどない 11 月の促成アスパラガス栽培技術の確立、ハクサイの冬～春生産を可能にする新品種・作型の開発に向けた課題を実施している。

また、平成 25 年度からは東日本大地震・大津波被害地域の復興を目的とした、国庫委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開研究」を導入し、キュウリ、パプリカ、トマトの生産・加工技術の実証研究として、センター内の他、陸前高田市・大槌町に実証圃場を設置し、被災地復興支援に取り組んでいる。

キュウリでは、安価な「かん水同時施肥装置」を活用し、現地で露地夏秋作型キュウリの栽培を行い、装置の性能に問題はなく、慣行栽培と同等の収量が得られることを確認した。また、新形質キュウリであるベイトアルファ型キュウリは初期収量が優れていることを明らかにしたほか、試験販売を通じて、消費者のベイトアルファ型キュウリに対する良好な評価を得た。

パプリカは、本県の夏期冷涼な気象を活かすとともに、沿岸被災地域の水稲育苗施設の高度利用を図るため、簡易な隔離床栽培法を考案し、安定生産技術の確立を図っている。また、短い栽培期間で収量をあげるため、収量性に優れる品種の選定や摘心方法、台木の利用等について検討を行っている。

トマトでは、省力的で収量が高い栽培技術として、露地放任ネット誘引栽培(ソバージュ栽培)の改良を行い、直立ネット誘引により収量が向上することを明らかとした(平成 26 年度研究成果)。

また、付加価値の高い品目として、橙系ミニトマト品種について、品質の優れる品種を明らかとした(平成 26 年度研究成果)。

<花きチーム>

花きは、「日本一のリンドウ産地を支えるオリジナル新品種の開発、安定生産技術の開発」を目指し、主産地としての優位性を維持するために、リンドウに重点を置いた品種、技術の開発を行っている。特に、市場の需要を満たし、さらには需要を作り出すためのオリジナル品種開発を最重点課題としている。

また、これまでに開発したオリジナル品種の原々種維持、原種増殖と種苗センターへの供給、生産性の高い省力・低コスト安定生産技術の確立に向けた課題を実施している。

リンドウの品種開発では、有望 F₁ 系統の組合せ検定を実施し、品質の低下が見られる既存品種に置き換わる、品質、揃いに優れた新品種を順次開発しており、新たな品種構成による継続した出荷が可能となりつつある。

純系リンドウと DNA マーカーを利用した品種育成技術を活用し、未受精胚珠の培養により得られた倍加半数体個体から採種し、純系を用いた F₁ 採種を目指して、特性調査を進めている。

一方、培養が困難であった系統の増殖方法を明らかにすることで、全ての系統について組織培養による増殖が可能となった(平成 26 年度研究成果)、

リンドウ種子供給に関して、原々種の安定採種、親株の大量増殖と供給に取り組み、ほぼ計画数量どおりの親株を種苗センターに供給した。これら採種親株の管理について、種苗センター現地ほ場を確認しながら、検討会を実施した。

南部園芸研究室

南部園芸研究室は平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波により研究施設等が全壊・流失したが、平成 26 年 1 月 6 日に再建・開所して業務を再開した。

トマト 3 段摘心による新栽培様式の確立試験は、宮城県山元町の実証試験地内施設および南部園研場内で実施し、3 段摘心栽培にインタープラントイングの技術を取り入れた連続栽培について試験を行なった。目標収量の 10t/10a は到達できる見込みである。園芸学会東北支部では、この新栽培様式における適性品種の選定について報告した。

イチゴの品種比較試験は、東北農業研究センターと共同で実施しているもので、四季成り性品種の夏秋どり作型、一季成り性品種の低温カット栽培に適した品種選定を行なっている。昨年度導入系統について、各系統の特性を明らかにした。

先端プロ「中山間地域における施設園芸技術の実証研究」は、2 年目となり、本格的な実証研究を開始した。平成 25 年度に建設した建設足場資材利用ハウスでは、トマトの隔離床栽培およびトマトの養液栽培における UECS 対応の相対照度測定と日積算値による LAI 推定機能を加えた量管理ノードを用いた試験に着手した。木骨ハウスでは、イチゴの促成栽培と周年栽培の実証試験に取り組んでいる。また、栽培実証と併せてハウス内環境について検討したが、鉄骨ハウスに比べ採光性が劣ることを明らかにした。この他にも木骨ハウスの課題を整理し、平成 27 年度には改良型木骨ハウスの建設に反映させる予定である。木骨ハウスにおけるイチゴの促成栽培では、改良型の木質バイオマス加温機を用いて閉鎖型高設栽培システムによるイチゴの促成栽培を行ない、同加温機のハウス加温性能および排熱を利用した局所温度管理法について試験を実施した。また、今年度から一季成り性品種および四季成り性品種を用いた周年栽培の実証試験を開始した。

(4) 環境部

生産環境研究室

生産環境研究室では、安全で、安心できる農産物の安定的な生産・供給や環境に配慮した農業の振興を図り、岩手ならではの産地づくりに寄与するため、①土壌養分の蓄積に対応した効率的な施肥管理技術の開発、②家畜由来有機物等を地域資源として有効活用するための技術開発を柱とした研究課題に取り組んだ。また、東日本大震災の津波によって被災した農地の復旧・復興対策として、国庫委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開研究」を導入し、復旧水田での水稻の安定生産実証に取り組んだ。

土壌蓄積養分に対応した効率的な施肥管理技術の開発としては、トマトの安定生産のための新たな窒素施肥基準の策定として、可給態窒素水準が低、中、高の 3 段階の異なる土壌での栽培試験(ドレンベット)を行った。その結果、トマトの収量は、窒素施肥量が同等であっても土壌の可給態窒素の影響を受ける事を明らかにした。また、北上市内の施設トマトの現地調査を行い、現地における可給態窒素の実態を把握した。りんごでは、平成 26 年度から補給型施肥と従来型施肥の比較試験を開始し、所内の圃場と現地圃場 3 箇所、生育、収量調査や跡地土壌の調査を行った。

家畜由来有機物の有効活用する技術開発としては、鶏ふん堆肥と豚ふん堆肥の窒素の肥効について、新たな分析手法によって速効的部分と緩効的部分を評価し、それに基づく化学肥料の代替試験を行った。水稻の圃場試験では、鶏ふん堆肥は、肥効評価法の推定値に近い窒素肥効を確認できたが、豚ふん堆肥は、緩効性部分の肥効が推定値より少なく、窒素追肥の代替は検討が必要と考えられた。こまつなポット試験では、1 作目は化学肥料と同等の生育を示したが、2 作目以降は堆肥からの窒素供給は、窒素肥効の推定値よりも少ない傾向となった。

津波で被災した農地の復旧・復興対策としては、山土を客土して平成 25 年度に復旧した水田において、地力不足を補うための稲わらと石灰窒素の秋施用や、地力の代替として緩効性窒素肥料を活用した施肥試験を行った。その結果、緩効性肥料により収量は増加した圃場もあるが、より生育、収量の安定化を図るため、緩効性肥料の溶出パターンについて、更なる検討が必要と考えられた。一方、平成 25 年度の所内試験において、がれき分別土を中心とした土壌を客土しても水稻の生育には影響しないことが明らかとなったことから、平成 26 年度の作付に向けた復旧工事では、客土としてがれき分別土を中心とした土壌が用いられた。平成 26 年度には、これらの圃場において生育、収量調査を行ったところ、生育は順調で 600kg/10a 以上の収量(坪狩り)を確保した。

今年度の取組みの成果は、指導区分として「水稻用軽量育苗培土の特性」をとりまとめ、今後県内で流通が見込まれる軽量育苗培土の特性を調査し、軽量培土の利用上の留意点などを明らかにした。

試験研究以外の取組みとしては、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う、県産農林水産物の放射性物質検査に取組み、野菜、果実、畜産物、林産物など年間約 1,000 点を分析し、県による検査結果として公表された。また、農地土壌のモニタリング調査として、同一圃場 75 地点において、4 年目の継続調査を行い、おおむね理論どおりに放射性セシウムが減衰していることを明らかにした。

病理昆虫研究室

持続性が高く安定性のある農業生産を目指した病害虫制御技術を確立するため、環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術、生物的防除など環境にやさしい病害虫防除技術及び病害虫総合管理技術(IPM)の開発に取り組んだ。水稲分野では、品種「ひとめぼれ」を対象に、穂いもち防除実施の有無による収量・品質について検討、穂いもち被害度と減収率、出穂期における上位3葉の株あたり病斑数との関係を明らかにした。また現地調査から葉いもち多発ほ場がある地域では穂いもちが多発するリスクがある事を示し、学会で発表(第68回北日本病害虫研究発表会)するとともに研究成果(指導)として取りまとめた。

畑作分野では、ダイズの重要害虫であるマメシクイガに対する薬剤の特性を明らかにするとともに、薬剤毎の防除時期を示し、学会で発表(第68回北日本病害虫研究発表会)するとともにこれを研究成果(指導)として取りまとめた。また、ホップにおける農薬登録拡大を目指し、「地域特産作物への農薬適用拡大加速化事業」に取り組む岩手県ホップ連合会を支援した。

野菜分野では、普及センターと連携し、転炉スラグを利用したハウレンソウ萎凋病およびキュウリホモプシス根腐病の被害軽減について現地実証等に取り組むとともに高EC条件下での転炉スラグの効果について検証した(平成26年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業)。施設果菜類(ピーマン、トマト)においては、天敵製剤と光反射防虫ネットや光反射シート等の物理的防除を用いてアザミウマ類による被害軽減効果を確認するとともに、現地で活用できる可能性のある土着天敵を明らかにし、研究成果(研究)として取りまとめた。さらに、だいこんを加害するキスジノミハムシに対する粒剤の効果を確認し、研究成果(指導)として取りまとめた。

果樹分野では、リンゴ腐らん病の果台感染に対する薬剤の防除効果を検討し、その結果を研究成果(指導)として取りまとめた。

花き分野では、近年ペルメリンに対する抵抗性個体群の発生が確認されているリンドウホソハマキに有効な薬剤を選抜するとともに、効果的な防除体系を提示しこれを研究成果(研究)として取りまとめた。

なお、学会等には積極的に参加し、国際ダニ学会1件、日本ダニ学会1件、日本応用動物昆虫学会1件、北日本病害虫研究会では4件についてポスター発表し、本県の成果をPRした。

また、本県で開催された日本植物防疫協会シンポジウムにおいても「水稲直播における病害虫防除」について問題提起するとともに、「本県果樹における枝幹害虫の発生の現状と防除」について紹介した。

(5) 病害虫防除部

病害虫防除課

(病害虫発生予察)

水稲、麦類、大豆、りんご、きゅうり、キャベツ、ねぎ、りんどうを対象として発生予察調査等に基づき、7回の定期情報に加え、注意報を6回(水稲:斑点米カメムシ類、りんご:ハダニ類、ねぎ:ネギアザミウマ、きゅうり:炭疽病・べと病、アブラナ科作物:コナガ)、特殊報を1回(樹木類:プラタナスグンバイ)発表した。また、防除速報を8回(水稲:斑点米カメムシ類、取り置き苗処分、葉いもち、小麦:雪腐病、赤かび病、野菜・花き類:オオタバコガ、きゅうり:べと病、りんどう:ハダニ類)発行した。これらの情報については、電子メール、印刷物のほか、いわてアグリベンチャーネットにも掲載し、関係機関・団体、共同防除組合等に提供した。

(病害虫防除指導)

効率的な薬剤防除並びに生物的防除法、耕種的防除法および物理的防除法を組み入れた総合防除の地域への定着を図り、環境に配慮した持続的農業を推進するため、病害虫防除員、関係機関・団体と緊密な連携をとりながら、「市町村病害虫防除計画」に基づいた防除の実施を推進した。

水稲においては、各地方の病害虫防除員協議会および病害虫防除連絡協議会、市町村病害虫防除協議会、稲作部会等が中心となり取り組んでいる地域の一斉点検調査とその結果に基づく防除指導に対し、随時支援・指導を行った。また、巡回調査地点の農家92件の防除実績等を収集し、発生要因解析を行い、次年度以降の防除指導の資とした。

園芸作物では、りんごについて地域の防除暦作成にあたって普及センター担当者等とともに検討を行った。また、県内72の共同防除組合等から防除実績を収集、解析して次年度の防除計画の改善に資した。野菜では16件、りんごは10件の農家の防除実績を収集、同様に次年度の防除計画に資した。

病害虫防除員に対しては、上記の調査活動や防除指導への支援の他、植物防疫実績検討会および諸会議、研修会等を通じて情報の共有と資質の向上を図った。

重要性が増してきている病害虫診断は、92件の依頼に対応した。作物別の内訳は、野菜が最も多く(66%)、次に花き(22%)、果樹(6%)の順であり、原因別には、病害が56%、虫害が6%で、次に不明、生理障害・薬害の順であった。

(農薬適正使用指導)

農薬の適正な販売や使用を徹底するために、農薬の販売者や使用者に対する研修会を関係機関・団体と共同で開催した(7月11日、参加者217名)。また、農薬取締法に基づき、農薬販売者への立入検査を実施するとともに(316件)、農薬使用基準違反のあった使用者に対し指導を行った(7件)。

(6) 畜産研究所

家畜育種研究室

<家畜育種>

(肉用牛) 日本短角種:種雄牛造成ではH25直接検定牛15頭(平均DG1.49kg)から、現場後代検定用6頭(選抜率40%、平均DG1.49kg)を選抜した。現場後代検定ではH22交配種雄牛5頭(「高良」、「良男」、「良藤」、「辰山」、「森人」)の成績を公表した。

黒毛和種:受胎性を高める新たな牛胚形態評価法を確立するため、黒毛和種繁殖牛8頭から受精卵を採取し、61胚を凍結・融解したところ、胚の割球の大きさや集合性が一様な胚の生存率が高い。

また、肥育素牛の育成期(3~9か月齢)に、乾物中粗蛋白質(CP)19%の配合飼料を給与した牛とCP25%と高めた配合飼料を給与した牛では、その増体に差はない。

(養豚) 現地農場と連携して、パークシャー種豚群の遺伝的改良およびパークシャー種肥育後期に飼料用米配合割合75%で代替した飼料給与試験に取り組んだ。

肥育後期に飼料用米75%を給与したパークシャー種では、ロース肉中の脂肪含量が増加し、皮下脂肪ではオレイン酸が高まるとともに、リノール酸が低下し、官能評価による評価が高くなることが明らかとなった。

(養鶏) 南部かしわ母鶏生産用ロードアイランドレッド(RIR)を改良するため、(独)家畜改良センター岡崎牧場(YC)からの導入RIR鶏と保有する岩手大型RIR(M)の交配選抜するための能力調査を行った。RIR(YC)の150日齢体重は、雄2,538g、雌1,739gとRIR(M)に比較して劣るが、産卵率では150~270日齢間84.7%とRIR(M)の同期68%よりも能力が高い。よって、RIR(M)とRIR(YC)の上位である雄・雌をそれぞれ交配する人工授精を開始した。

<家畜工学>

(遺伝子解析) 黒毛和種県有種雄牛「菊安舞鶴」において、牛肉中一価不飽和脂肪酸割合に関するQTLを第10番染色体に検出した。後継種雄牛「緑乃大地」は第10番染色体の優良領域を保有していることを明らかとした。また、肉用牛改良に有用なマーカー検出のため、一塩基多型(SNP)を用いたゲノムワイド関連解析を開始し、黒毛和種肥育牛456頭の脂肪片を用いたDNA抽出と96頭のSNP型判定を実施した。

家畜飼養・飼料研究室

<飼養>

乳用牛育成牛に搾乳用TMRを活用した飼料を給与することで、必要な栄養量の充足が容易となり、初産月齢が23.2か月と早期化が図られ産乳性にも影響がないことを明らかにした。

分娩60日前の乳量が25kg/日以上の高泌乳牛の305日乳量は、乾乳期間を30日程度に短縮すると泌乳ピーク時乳量の低下に伴い減少するが、前産次の泌乳延長期間乳量分を加えた総乳量は、短縮しない場合と同程度になり、繁殖性に悪影響は認められないことを明らかにした。

搾乳牛に飼料米を乾物比で20%まで給与しても産乳性には影響が無く、TDNベース自給率を約80%まで高めることが可能であることを明らかにした。

くず大豆を発酵TMR原料として、乾物中5%程度利用しても乳牛の産乳性には影響が無く、配合飼料等の蛋白質の25%を代替することができることを明らかにした。

子牛への初乳給与を2日間実施することによる発育改善等の効果の調査を実施中である。

<飼料>

オーチャードグラス中生品種「ハルジマン」、「まきばたろう」、「北海30号」は収量性及び永続性に優れ、本県に適応する優良品種であることを明らかにした。

土壌中交換性カリ含量が30mg/100g以上ある圃場では、飼料用トウモロコシはカリ無施肥栽培が可能であり、20~30mg/100gで通常量施肥を行う場合、堆肥によるカリ施肥100%代替が可能であることを明らかにした。

アレチウリ防除技術として不耕起栽培播により種時期を遅らせることで、初年目であっても被害を受けず一定量の収量確保が可能となることを確認。

牧草の春播種において、除草剤処理は播種後2ヶ月程度で掃除刈りに処理するとエゾノギンギン防除に効果確認。

<牧草の放射線対策>

耕起困難及び耕起不能放牧地の利用に再開において、無施肥の場合、牧草中放射性セシウム濃度は夏季に上昇するが、放牧地用の県標準量の施肥をすると濃度の上昇を抑制することを明らかにした。

関係機関による除染プロジェクトチーム活動に参画し、牧草地における放射線対策のための肥培管理、耕起状況等に関する調査を実施し、草地更新後の牧草中放射性セシウム濃度に及ぼす要因を明らかにした。また、牧草・土壌のミネラルモニタリング 239 点、畦畔草の放射線スクリーニング検査を 18 点実施した。

外山畜産研究室

<飼養>

妊娠中後期の黒毛和種を、冬期間終日屋外で飼養しても、寒冷時に体温維持に必要なエネルギー相当の増飼をすることで分娩後の繁殖性、産子の体重および発育に影響を及ぼさず、管理作業時間も短縮されることを確認した。この成果については農業改良普及センターおよび共同研究先の東北農業研究センターと共にパンフレットを作成し、各種機会を利用して肉用牛増頭のための技術として紹介した。

H25 年自然交配の日本短角種「川春」号産子 48 頭を生産。雄 17 頭、雌 3 頭が現場後代検定用に選抜された。

<飼料>

放牧地の春期更新時にオーチャードグラス(OG)とイタリアンライグラス(IR)を混播した場合と春期に IR を単播し、放牧後の秋期に OG を追播した場合の収穫量と草種構成割合を明らかにした。

低温性乳酸菌添加による牧草サイレージおよび発酵 TMR の品質向上のために、昨年度有望性が確認された菌株を用い、添加量を変えて 4℃・30 日の保存後の品質を調査し、 10^7 cfu/gFM 以上の添加で良好な結果を得た。また、秋期に収穫した牧草サイレージへの実規模添加試験を行った。

種山畜産研究室

<いわて和牛改良増殖対策事業>

黒毛和種改良事業の一環として、県内産黒毛和種種雄牛候補 9 頭を選定するとともに畜産研究所生産の受精卵雄産子等 6 頭計 15 頭の直接検定を実施し、後代検定を実施する候補種雄牛として 5 頭(「森安秀」「平成舞鶴」「中平 165」「菊勝久」「茂平」)を選抜した。

また、平成 21 年度の直接検定により選抜された「緑乃大地」「花金幸」「奥安美継」「山根雲」「福幸久」の 5 種雄牛について現場後代検定を実施し、うち肉質が優れる「緑乃大地」、肉量に優れる「山根雲」を新たに基幹種雄牛として選抜した。

<県有種雄牛の情報発信>

市場成績(毎月)、たねやま種雄牛だより(毎月)を発行し、ホームページに公開、家畜市場等において配布したほか、家畜人工授精師等を対象として、種雄牛の能力情報等をダイレクトメールで配信した。

(7) 県北農業研究所

園芸研究室

県北・沿岸地域の立地特性を活用した園芸作物の安定生産技術の確立に向け、野菜ではハウレンソウケナゴコナダニの総合防除体系、ねぎの出荷期間の延長に向けた冬期貯蔵法、春まきたまねぎの作型開発、花きでは無側枝性ギク露地栽培技術の確立を中心に取り組んだ。

ハウレンソウケナゴコナダニの総合防除体系については、近年適用拡大された薬剤の効果及び有機入り配合肥料に替えて

化学肥料を施用することで害虫密度や被害を低減できることを明らかにした。ねぎではパイプハウスで冬期貯蔵する際の温度管理や、伏せ込み・べたがけの方法、貯蔵性の品種間差をとりまとめた。春まきたまねぎでは、適品種・作期、セルトレイ育苗法、雑草防除法を明らかにし、新しい作型として成立することを示した。無側枝性ギクについては、産地で導入されている品種の特性を比較して露地栽培が可能な品種を明らかにするとともに、花首の伸長抑制に用いる成長調整剤の効果と処理法を示した。これらは、今年度の試験研究成果書(普及区分1編、指導区分5編)として取りまとめ公表した。

また、研究実施の過程で、ほうれんそう、ねぎ、無側枝性ギクについては、園芸産地改革戦略推進会議技術対策部会・園芸産地改革ネットワークが主催する研修会において、普及センターやJA等と情報共有を図り、ほうれんそう、春まきたまねぎ、無側枝性ギクではセミナー、現地研修会、指導会の開催あるいは講師対応により成果の迅速な普及を図った。

新規課題として、試験研究の要望(中央農業改良普及センター)に対応した「生食用露地ほうれんそう栽培法の確立」及び、組織営農の収益性向上に向け農業経営研究室、作物研究室(県北)との分担協力による「県北・沿岸地域の生産性・収益性の高い組織営農モデルの育成」(水稻プール育苗後を利用した葉菜の水耕栽培技術)を開始した。

八幡平、久慈、二戸普及センターの野菜担当者との間でラウンドテーブルをそれぞれ開催し、地域課題とその解決方策について共有化を図り、次年度の課題設定等に役立てた。

作物研究室

雑穀に関する課題「いわて雑穀生産・販売戦略を支援する品種開発と持続的安定生産技術の確立」(H22～26)は、目標が達れたことから、1年前倒しで終了し、「雑穀の機械移植法の開発」(H24～26)については3年実施して終了した。

平成26年度から「雑穀の高付加価値化に向けた機能性成分の高い品種育成と低コスト栽培技術の開発」に取り組んだ。品種育成にかかる課題では、ヒエ・アワ・キビの在来系統の機能性、成分含量の評価を行い、アワ EMS 突然変異系統の形質評価と選抜等を行った。栽培技術に関する課題では、水稻用ポット苗田植機の移植爪を改良し、棚置き育苗による苗を用いることで雑穀の畑移植に汎用利用できる技術として「ポット苗田植機を用いた雑穀の機械移植技術」を成果公表した。

農産部門依存から多角化を図ろうとする営農組織を対象に、「県北・沿岸地域の生産性・収益性の高い組織営農モデルの育成」に取り組み、乾田直播の実施およびダイズの多収試験を実施した。今後、水稻育苗施設の跡地利用及び水稻部門の現状と今後の経営試算から多角化へのプロセスの提案、そして、地域の実情に合わせた6次産業化や農商工連携のあり方などを提示しながら、順次、地域への波及を目指して行く。

原種生産については、雑穀3品種について計画どおり生産・確保した。また、水稻、小麦、大豆の奨励品種決定調査、作況調査・作柄解析についても実施し、本部作物研究室との連名で成果情報を提供した。

県北地域の食の新たなシーズ掘り起こしと商品化を支援する農商工連携・6次産業化支援に、振興局の食産業担当者との協働で取り組んだ。県が新たに育成した雑穀(あわ)「ゆいこがね(出願公表中)」、(きび)「キビ岩手糯1号(出願公表中)」を用いて、食品企業や岩手大学と連携しながら、「雑ックワーズ」等の商品づくりのプロジェクト活動を進め、商品化された。

4 平成26年度試験研究課題

(1) 細目課題分類

研究推進計画分野 担当部所	総課題数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
		農業構造・経営管理	水稲	畑作物	果樹	野菜	花き	作業技術	環境保全	土壌作物栄養	病害虫制御	乳用牛	肉用牛	中小家畜（豚・鶏）	草地・飼料作物	畜産環境	県北農業振興	震災復興
プロジェクト推進室	8			1				2		1								4
企画管理部	8	5	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
農業経営研究室	8	5		1				1										1
技術部	141	0	53	11	31	14	10	2	0	5	3	0	0	0	0	0	0	12
果樹研究室	37				31					2	1							3
作物研究室	69		53	11				1		1	1							2
野菜花き研究室	28					14	7	1		1	1							4
南部園芸研究室	7						3			1								3
環境部	44	0	0	1	1	1	0	1	0	7	31	0	0	0	0	0	0	2
生産環境研究室	13			1	1	1		1		7								2
病理昆虫研究室	31										31							
畜産研究所	28	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	13	3	8	0	0	0
家畜育種研究室	13											1	8	3	1			
家畜飼養・飼料研究室	9									1		2	1		5			
外山畜産研究室	3												1		2			
種山畜産研究室	3												3					
県北農業研究所	36	0	10	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	22	0
園芸研究室	17						2			1							14	
作物研究室	19		10							1							8	
総計	265	5	63	14	32	15	12	6	0	16	34	3	13	3	8	0	22	19

※複数の分野に再掲されている研究課題はそれぞれに計上。

複数の担当研究室がある研究課題はそれぞれに計上。

(2) 試験研究課題一覧

凡 例

- ・主査: 小課題の主査研究室
- ・No.: 小課題の連番、課題毎の固有番号はそれぞれの課題名の先頭に()表記
- ・課題: (課題番号)課題名を記載、小課題は太字表示
※ 課題番号: 細目課題は1000番代表記、細目1～4まで各桁毎の表記
- ・開始・終了: 課題の実施～終了年数
- ・予算区分: 国庫補助; 国庫補助事業、国庫委託; 国庫委託事業、独法委託; 独法委託事業、民間委託; 民間委託事業
令達; 令達予算研究、県単研究; 県単予算予算、県単採種; 主要農作物採種管理費
- ・担当: 小課題、細目課題の担当研究室名

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【プロジェクト推進室】						
プロジェクト	1	(H24-01)水田転換畑における作物の生産性向上技術の確立	24	26	県単研究	プロジェクト、農業経営、 生産環境、作物(技術)
プロジェクト		(H24-01-1000)転換畑における大豆生産性向上技術の総合実証	24	26	県単研究	生産環境、作物(技術)、 農業経営、プロジェクト
プロジェクト		(H24-01-1200)転換畑に適する品種および栽培法の検討	24	26	県単研究	作物(技術)、生産環境、 農業経営、プロジェクト
プロジェクト		(H24-01-1300)転換畑大豆の高単収総合実証	26	26	県単研究	プロジェクト、作物(技術)、 生産環境、農業経営
プロジェクト	2	(H25-11)中小区画土地利用型営農技術の実証研究	25	29	独法委託	プロジェクト、作物(技術)、 生産環境、農業経営
プロジェクト		(H25-11-1000)分散する小規模水田における省力・低コスト栽培技術の実証	25	29	独法委託	プロジェクト、生産環境、 作物(技術)
プロジェクト		(H25-11-1100)復旧水田での地力改善による水稻の安定生産実証	25	27	独法委託	生産環境
プロジェクト		(H25-11-1200)水稻生産の省力化・低コスト化技術の実証	25	29	独法委託	プロジェクト、生産環境
プロジェクト		(H25-11-1300)直播適性品種有望系統の導入と地域適応性の検討	25	27	独法委託	作物(技術)
プロジェクト		(H25-11-2000)ソバなど省力的な土地利用型作物の安定生産技術の実証	25	29	独法委託	プロジェクト
プロジェクト		(H25-11-2100)省力生産を前提にした安定多収栽培技術の実証	25	29	独法委託	プロジェクト
プロジェクト		(H25-11-2200)省力・低コスト収穫作業体系の実証	25	28	独法委託	プロジェクト
プロジェクト		(H25-11-3000)中山間水田における畦畔法面の省力管理技術の実証研究	25	29	独法委託	プロジェクト、農業経営
プロジェクト		(H25-11-3100)畦畔法面の植生転換による管理作業の省力化	25	29	独法委託	プロジェクト、農業経営
プロジェクト		(H25-11-4000)加工ブランドに適した稲、大豆の新品種の導入と高品質栽培技術の実証	25	29	独法委託	作物(技術)
プロジェクト		(H25-11-4100)夏季冷涼気候に対応した水稻高品質安定栽培技術の実証	25	29	独法委託	作物(技術)
プロジェクト		(H25-11-4200)夏季冷涼気候に対応した大豆高品質安定栽培技術の実証	25	29	独法委託	作物(技術)
プロジェクト	3	(H26-12)岩手県における鉄コーティング種子の無代かき灌水直播栽培方の確立	26	28	民間委託	プロジェクト
プロジェクト	4	(H26-13)寒冷地水田における水田除草装置の適応性と性能評価	26	26	独法委託	プロジェクト
【農業経営研究室】						
農業経営	5	(H21-04)農業技術体系データベースの整備・拡充	21	30	県単研究	農業経営
農業経営	6	(H24-02)沿岸地域農業の復興に向けた新たなビジネスモデルの構築	24	28	県単研究	農業経営
農業経営	7	(H25-15)農業経営における先端技術導入効果の解明	25	29	独法委託	農業経営

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【作物研究室】						
作物(技術)	9	(61)水稲原々種生産	S29	30	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	10	(62)水稲原種生産	S29	30	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	11	(803)水稲奨励品種決定調査	14	30	県単採種	作物(技術)、作物(県北)
作物(技術)		(803-1000)予備調査	14	30	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-1100)中晩生系統	14	30	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-1200)早生系統	14	30	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(803-2000)本調査	14	30	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-2100)中晩生系統	14	30	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-2200)早生系統	14	30	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(803-3000)現地調査	14	30	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-4000)有望系統の栽培法	14	30	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	12	(805)水稲作況調査と作柄成立要因の解析	14	30	県単研究	作物(技術)、作物(県北)
作物(技術)		(805-1000)水稲作況調査	14	30	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-1100)県央・県南地域	14	30	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-1200)県北地域	14	30	県単研究	作物(県北)
作物(技術)		(805-2000)水稲優良品種の気象反応試験	14	30	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-2100)県央・県南地域	14	30	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-2200)県北地域	14	30	県単研究	作物(県北)
作物(技術)		(805-3000)水稲作柄成立要因の解析	14	30	県単研究	作物(技術)、作物(県北)
作物(技術)	13	(807)水田雑草の効果的防除技術の開発	14	30	民間委託	作物(技術)、作物(県北)
作物(技術)		(807-1000)水稲作用除草剤第2次適用性試験	14	30	民間委託	作物(技術)
作物(技術)		(807-1100)県央・県南地域	14	30	民間委託	作物(技術)
作物(技術)		(807-1200)県北地域	14	30	民間委託	作物(県北)
作物(技術)	14	(889)麦類耐寒雪性特性検定試験	14	30	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	15	(890)畑作物の生育相及び気象反応の解明	14	30	県単研究	作物(技術)、作物(県北)
作物(技術)		(890-2000)大豆の生育相と気象反応の解明	14	30	県単研究	作物(技術)、作物(県北)
作物(技術)		(890-2100)県央・県南地域	14	30	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-2200)県北地域	14	30	県単研究	作物(県北)
作物(技術)		(890-1000)麦類の生育相と気象反応の解明	14	30	県単研究	作物(技術)、作物(県北)
作物(技術)		(890-1100)県央・県南地域	14	30	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-1200)県北地域	14	30	県単研究	作物(県北)
作物(技術)	16	(891)畑作物原々種・原種生産	14	30	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	17	(H19-12)大豆等奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査	19	30	県単採種	作物(技術)、作物(県北)
作物(技術)		(H19-12-1000)(1)奨励品種決定調査(県南・県央地域)	19	30	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-12-2000)(2)奨励品種決定調査(県北地域)	19	30	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(H19-12-3000)(3)有望系統特性調査	19	30	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	18	(H19-13)麦類奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査	26	30	県単採種	作物(技術)、作物(県北)
作物(技術)		(H19-13-1000)(1)奨励品種決定調査(県南・県央地域)	26	30	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-13-2000)(2)奨励品種決定調査(県北地域)	26	30	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(H19-13-3000)(3)有望系統特性調査	26	30	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	19	(H21-24)東北地域中北部向け多収稲品種の共同育成	21	26	H21県単 H22～独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-3000)個体選抜	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4000)系統選抜	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4100)単独系統	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4200)生産力検定予備試験系統群	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4300)生産力検定本試験系統群	21	26	独法委託	作物(技術)

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
作物(技術)		(H21-24-5000)生産力検定	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6000)特性検定試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6100)いもち病真性抵抗性遺伝子型推定	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6200)葉いもち圃場抵抗性検定試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6300)穂いもち圃場抵抗性検定試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6400)耐冷性検定試験(育成系統)	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6600)食味関連成分分析及び物性試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6700)穂発芽検定試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6800)直播適性	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-8000)育成系統採種	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	20	(H22-rb01)主食用米等品種の育成(コシヒカリを超える米)	S59	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-1000)交配母本評価と交配	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-2000)初期世代養成	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-3000)個体選抜	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4000)系統選抜	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4100)単独系統	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4200)生産力検定予備試験系統群	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4300)生産力検定本試験系統群	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5000)生産力検定	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5100)生産力検定予備試験	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5200)生産力検定本試験	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5300)生産力検定試験早生系統	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6000)特性検定試験	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6100)いもち病真性抵抗性遺伝子型推定	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6200)葉いもち圃場抵抗性検定試験	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6300)穂いもち圃場抵抗性検定試験	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6400)耐冷性検定試験(育成系統)	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6500)食味官能試験	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6600)食味関連成分分析及び物性試験	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6700)穂発芽検定試験	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6800)直播適性	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-7000)DNAマーカー等先端技術利用	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-8000)育成系統採種	S63	30	令達	作物(技術)
作物(技術)	21	(H24-19)ひとめぼれゲノム資源を活用した重要遺伝子同定と実用品種育成	24	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H24-19-1000)重要形質遺伝子集積による「スーパーひとめぼれ」の育成	24	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	22	(H26-19)耐冷性やいもち病抵抗性を強化した東北オリジナル業務・加工用品種の開発(直播、耐冷性)	26	30	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H26-19-1000)直播適応性検定	26	30	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H26-19-2000)耐冷性検定	26	30	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	23	(H26-21)実需者ニーズに応じた加工適性と広域適応性を持つ大豆品種等の開発	26	30	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H26-21-1000)東北・北陸地域に適した広域適応品種の開発と密植栽培技術の開発・有望系統の晩播密植栽培による大規模現地実証	26	30	国庫委託	作物(技術)
作物(技術)		(H26-21-2000)病害抵抗性を強化した安定多収大豆品種の開発を支える基盤技術の開発・有望系統の立枯性病害抵抗性評価	26	30	独法委託	作物(技術)

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【果樹研究室】						
果樹	24	(826)おうとう、もも等の優良品種の選抜	14	30	令達	果樹
果樹		(826-1000)おうとう、もも等の優良品種の選抜	14	30	令達	果樹
果樹	25	(829)キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜	14	28	独法委託,令達	果樹
果樹		(829-1400)第12回系統適応性検定試験	20	28	独法委託	果樹
果樹		(829-1500)第13回系統適応性検定試験	22	28	独法委託	果樹
果樹		(829-2000)国内外育成の寒冷地向き品種の選抜(生食用、醸造、兼用種等品種の選抜)	14	28	令達	果樹
果樹		(829-3000)耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜	14	28	令達	果樹
果樹	26	(830)ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発	14	30	令達	果樹
果樹		(830-1100)(2)国育成系統適応性(盛岡66~71号)	23	27	令達	果樹
果樹		(830-2000)国内外導入品種の選抜	14	30	令達	果樹
果樹	27	(837)ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発	14	30	令達	果樹
果樹		(837-1000)国内外導入品種の選抜	14	30	令達	果樹
果樹	28	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法	14	30	民間委託	果樹
果樹		(850-1000)果樹園用除草剤の効果的使用法	14	30	民間委託	果樹
果樹		(850-1100)民間委託試験分	14	30	民間委託	果樹
果樹		(850-1200)令達試験分	14	30	令達	果樹
果樹		(850-2000)果樹の植調剤及び資材の効果的使用法	14	30	民間委託	果樹
果樹	29	(851)果樹の生育と果実品質変動要因の解明	14	30	県単研究	果樹
果樹		(851-1000)りんごの生育・生態の把握	14	30	県単研究	果樹
果樹		(851-2000)ぶどうの生育・生態の把握	14	30	県単研究	果樹
果樹		(851-3000)西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握	14	30	県単研究	果樹
果樹	30	(894)良品質・高品質生産を目的としたウイルスフリー樹の作出	14	30	令達	果樹
果樹	31	(H21-05)つがる等に優るりんご早生品種の開発	21	30	令達	果樹
果樹	32	(H22-03)岩手県における果樹栽培の温暖化対策技術の確立	22	27	県単研究、 独法委託	果樹
果樹		(H22-03-1000)開花期前進に伴う凍霜害対策技術の確立	22	27	県単研究	果樹
果樹		(H22-03-2000)温暖化による果実障害対策技術の確立	23	27	県単	果樹
果樹		(H22-03-3000)気象変動に対応した優良系統の選抜	23	27	県単研究	果樹
果樹		(H22-03-5000)温暖化に対応できる新規果樹の選抜と栽培技術の確立	24	27	県単研究	果樹
果樹		(H22-03-6000)果樹園における温暖化緩和技術の開発	22	26	独法委託	果樹
果樹	33	(H23-03)りんご新品種などの安定生産技術の確立	23	28	県単研究	果樹
果樹		(H23-03-1000)オリジナル品種の安定生産技術の確立	23	28	県単研究	果樹
果樹		(H23-03-2000)優良品種の栽培技術の確立	23	28	県単研究	果樹
果樹	34	(H23-04)ぶどうオリジナル品種の安定生産技術の確立	23	26	県単研究	果樹
果樹		(H23-04-1000)高品質果実生産方法の確立	23	26	県単研究	果樹
果樹		(H23-04-2000)短梢栽培用平棚を利用した栽培方法の確立	23	26	県単研究	果樹
果樹	35	(H24-16)果樹生産のための省力・軽労化機器の開発	24	26	独法委託	果樹
果樹		(H24-16-2000)小型幹周草刈機の抑草効果と樹体に及ぼす影響評価	24	26	独法委託	果樹
果樹	36	(H24-17)国産小果樹類の新規市場開拓のための省力生産技術・加工品の開発	24	28	独法委託	果樹
果樹	37	(H25-13)ブランド化を促進する果実の生産加工技術の実証研究	25	29	独法委託	果樹、生産環境
果樹		(H25-13-1000)リンゴ産地の早期再生をはかる早期成園化・品質向上技術の実証	25	29	独法委託	果樹
果樹		(H25-13-2000)「北限のユズ」の加工利用を推進する安定生産技術の実証と商品開発	25	29	独法委託	果樹、生産環境
果樹		(H25-13-3000)ブドウ新品種の導入による新たな加工品開発	25	29	独法委託	果樹
果樹	38	(H26-15)りんごのわい化栽培における早期収・省力化を目指した栽培法の確立	26	40	県単・独法委託	果樹

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【野菜花き研究室】						
野菜花き	41	(191)りんどうの品種育成	S49	28	令達	野菜花き、園芸(県北)
野菜花き		(191-1000)リンドウの品種開発	26	28	令達	野菜花き、園芸(県北)
野菜花き		(191-2000)親株の安定生産と栄養系品種の維持・増殖	26	28	令達	野菜花き
野菜花き	42	(843)りんどうの生育・生態調査	14	30	県単研究	野菜花き
野菜花き	43	(H19-09)温度・日長条件に対するリンドウの生育反応	19	28	令達	野菜花き
野菜花き	44	(H22-07)リンドウ栽培安定化技術の開発	22	29	県単研究	野菜花き、園芸(県北)
野菜花き		(H22-07-2000)県育成極早生品種の株養成技術の開発	22	29	県単研究	野菜花き、園芸(県北)
野菜花き	45	(H23-05)早晩性の違いによるリンドウ組織培養の増殖条件の確立	23	26	県単研究	野菜花き
野菜花き	46	(H23-07)「なす」の省力・低コスト栽培技術の開発	23	27	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-07-1000)かん水等による低コスト生産安定技術の確立	23	26	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-07-2000)簡易で省力的な栽培技術の確立	23	27	県単研究	野菜花き
野菜花き	47	(H23-08)長期安定収穫が可能なトマト栽培技術の確立	23	29	県単研究、 独法委託	野菜花き、生産環境、 南部園芸
野菜花き		(H23-08-1000)低温期の障害果発生回避技術の確立	23	26	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-08-2000)肥料利用効率の高い新たな窒素施肥基準の策定	23	28	県単研究	生産環境
野菜花き		(H23-08-3000)高温期における草勢管理技術の確立	24	29	県単研究、 独法委託	野菜花き
野菜花き		(H23-08-4000)3段階芯新栽培様式の確立	23	29	県単研究、 独法委託	南部園芸
野菜花き	48	(H24-03)長日要求性素材を利用した極晩抽性ハクサイの安定生産技術の確立	24	29	独法委託	野菜花き
野菜花き	49	(H24-04)岩手型アスパラガス伏せ込み促成栽培安定生産技術の確立	24	28	国庫委託、県単	野菜花き
野菜花き		(H24-04-1000)高温及び低温による休眠打破メカニズムの解明	24	28	国庫委託	野菜花き
野菜花き		(H24-04-2000)高温による休眠打破を利用した新作型の確立	24	28	国庫委託、県単	野菜花き
野菜花き	50	(H24-05)新形質キュウリ安定生産技術の確立	24	28	国庫委託	野菜花き
野菜花き		(H24-05-1000)病害抵抗性台木の適応性の解明	24	26	国庫委託	野菜花き
野菜花き		(H24-05-2000)露地栽培における安定生産技術の確立	26	28	国庫委託	野菜花き
野菜花き	51	(H25-14)ブランド化を促進する野菜の生産・加工技術の実証研究	25	29	国庫委託	野菜花き
野菜花き		(H25-14-1000)露地キュウリと冬春キャベツによる寒冷地高収益モデルの実証研究	25	29	国庫委託	野菜花き
野菜花き		(H25-14-2000)育苗施設等の高度利用によるパプリカの栽培技術実証研究	25	29	国庫委託	野菜花き
野菜花き		(H25-14-3000)省力的なトマト栽培による高収益モデルの実証研究	25	29	国庫委託	野菜花き
野菜花き	52	(H26-16)野菜類抵抗性台木による安定生産技術の確立	26	31	独法委託	野菜花き
野菜花き		(H26-16-1000)ピーマン用トウガラシ台木の系統適応性試験	26	28	独法委託	野菜花き
野菜花き		(H26-16-2000)なす用台木品種の系統適応性試験	29	31	独法委託	野菜花き
野菜花き	53	(H26-18)収穫量の時期別変動が小さいパプリカ安定栽培技術の確立	26	28	県単研究、 国庫委託	野菜花き

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【南部園芸研究室】						
南部園芸	54	(H25-03)地域適応性の高いいちご系統の選定	25	27	県単研究	南部園芸
南部園芸		(H25-03-1000)地域適応性の高い半促成栽培向けいちご系統の選定	25	27	県単研究	南部園芸
南部園芸		(H25-03-2000)地域適応性の高い夏秋どり栽培向けいちご系統の選定	25	27	県単研究	南部園芸
南部園芸	55	(H25-12)中山間地域における施設園芸技術の実証研究	25	29	国庫委託	南部園芸
南部園芸		(H25-12-1000) 中山間立地に適応性の高い低コスト耐候性ハウスの実用化と設置技術の実証	25	29	国庫委託	南部園芸
南部園芸		(H25-12-2000) 地域木質資源を活用した低コスト暖房技術の実用化実証	25	29	国庫委託	南部園芸
南部園芸		(H25-12-3000)分散する中小規模園芸施設の効率的な管理技術の実用化実証	25	29	国庫委託	野菜花き
南部園芸		(H25-12-4000) 中山間立地特性に適応した収益性の高い園芸品目の技術実用化総合実証	25	29	国庫委託	南部園芸
【生産環境研究室】						
生産環境	56	(H15-23)土壌機能実態モニタリング調査	15	35	県単(土壌対策)	生産環境
生産環境	57	(H15-24)環境保全型有機質資源連用効果調査	15	27	県単(土壌対策)	生産環境
生産環境		(H15-24-1000)水田における有機質資源連用効果	15	27	県単(土壌対策)	生産環境
生産環境		(H15-24-2000)畑地における有機質資源連用効果	15	27	県単(土壌対策)	生産環境
生産環境	58	(H16-22)新肥料の実用化	16	27	民間委託	生産環境、プロジェクト、果樹、作物(技術)、野菜花き、南部園芸、園芸(県北)、作物(県北)
生産環境		(H16-22-5000)プロジェクト推進室	20	27	民間委託	プロジェクト
生産環境		(H16-22-7000)技術部	20	27	民間委託	作物(技術)、野菜花き、南部園芸
生産環境		(H16-22-7100)作物研究室(技術)担当分	20	27	民間委託	作物(技術)
生産環境		(H16-22-7300)南部園芸研究室担当分	20	27	民間委託	南部園芸
生産環境		(H16-22-7400)果樹研究室担当分	20	27	民間委託	果樹
生産環境		(H16-22-7500)野菜花き研究室担当分	20	27	民間委託	野菜花き
生産環境		(H16-22-8000)環境部	20	27	民間委託	生産環境
生産環境		(H16-22-8100)生産環境研究室担当分	20	27	民間委託	生産環境
生産環境		(H16-22-9000)県北農業研究所	20	27	民間委託	園芸(県北)、作物(県北)
生産環境		(H16-22-9100)園芸研究室(県北)担当分	20	27	民間委託	園芸(県北)
生産環境		(H16-22-9200)作物研究室(県北)担当分	20	27	民間委託	作物(県北)
生産環境	59	(H20-20)土壌由来温室効果ガスインベントリ情報等整備調査	20	32	独法委託	生産環境
生産環境	60	(H23-12)土壌環境に配慮した家畜由来有機質資源の肥料的評価	23	27	県単研究	生産環境
生産環境	61	(H26-02)補給型施肥がりんごの樹体生育と果実品質、土壌の蓄積養分量に及ぼす影響調査	26	30	県単研究	生産環境、果樹

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【病理昆虫研究室】						
病理昆虫	62	(H09-03)【植物防疫事業研究】	9	27	令達	病理昆虫
病理昆虫	63	(402)新農薬の効果検定と防除指針作成	9	30	民間委託	病理昆虫、作物(県北)、園芸(県北)、果樹、野菜花き
病理昆虫		(402-2000)県北地域	9	30	民間委託	園芸(県北)、作物(県北)
病理昆虫		(402-4000)環境部	9	30	民間委託	病理昆虫
病理昆虫		(402-5000)技術部	16	30	民間委託	果樹、野菜花き
病理昆虫	64	(H15-28)地域特産物における新防除資材の実用化	15	30	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H15-28-K001)リンドウ 炭疽病	26	27	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H15-28-O000)リンドウ 黒斑病	26	27	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H15-28-P000)リンドウ 苗腐敗症	26	27	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H15-28-Q000)リンドウ キオビトガリメイガ	26	27	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	65	(H22-01)広域的な葉いもち防除の徹底による穂いもち防除を省略したいもち病防除体系の確立	22	26	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	66	(H22-04)ハダニ類を主体としたリンゴ病害虫防除体系の最適化	22	28	国庫補助	病理昆虫、果樹
病理昆虫		(H22-04-1000)夏期の防除体系の最適化	22	28	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H22-04-2000)樹型等を考慮した適正な薬剤散布量の検討	22	26	国庫補助	果樹
病理昆虫		(H22-04-3000)ナミハダニ薬剤抵抗性個体群の動態把握	26	28	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	67	(H22-06)キュウリ栽培で問題となる病害の防除技術確立	22	26	国庫補助、 県単研究	病理昆虫
病理昆虫		(H22-06-1000)ホモプシス根腐病の防除技術確立	22	26	国庫補助、 独法委託	病理昆虫
病理昆虫	68	(H23-13)耕種の防除と天敵製剤を組みあわせた果菜類害虫の防除技術の開発	23	28	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H23-13-2000)施設栽培ピーマンにおける天敵製剤を活用した化学合成農薬削減技術の開発	23	28	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H23-13-3000)施設栽培トマトにおける防虫ネットを活用した化学合成農薬削減技術の開発	26	28	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	69	(H23-14)ホウレンソウ栽培で問題となる病害の防除技術の確立	23	26	令達、 国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H23-14-2000)土壌酸性改良によるホウレンソウ萎凋病の発病抑制効果の検討	23	26	国庫補助、 独法委託	病理昆虫
病理昆虫	70	(H24-07)リンドウホソハマキの効率的な防除体系の確立	24	26	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	71	(H25-01)水稲細菌病類(もみ枯細菌病・苗立枯細菌病)を主体とした種子伝染性病害の総合防除技術の確立	25	27	国庫補助	病理昆虫、作物(技術)
病理昆虫		(H25-01-1000)種子生産(原原種、原種、採種)における効果的な種子保菌量低減技術の開発	25	27	国庫補助	病理昆虫、作物(技術)
病理昆虫		(H25-01-2000)育苗期の耕種条件と苗腐敗症発生との関係解明	25	27	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H25-01-3000)水稲細菌病類の種子保菌量と苗腐敗症発生量との関係解明	25	27	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	72	(H25-02)大豆のマメシクイガに対する効率的な防除対策の確立	25	27	令達	病理昆虫
病理昆虫	73	(H25-04)りんどうこぶ症関連ウイルス(GKaV)の伝搬経路の探索	25	27	県単研究	病理昆虫、野菜花き
病理昆虫		(H25-04-1000)りんどうこぶ症ウイルス(GKaV)の媒介生物、保毒雑草、保毒微生物の探索	25	27	県単研究	病理昆虫
病理昆虫		(H25-04-2000)りんどうこぶ症ウイルス(GKaV)の花粉・種子伝染の確認	25	27	県単研究	野菜花き
病理昆虫	74	(H26-01)薬効特性を踏まえた斑点米カメムシ防除体系の検討	26	28	国庫補助	病理昆虫

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【家畜育種研究室】						
家畜育種	75	(237)日本短角種産肉能力検定(現場後代検定法)	17	30	令達	家畜育種(いわて短角0.5)
家畜育種	76	(236)日本短角種産肉能力検定(直接法)	S45	30	令達	家畜育種(いわて短角0.5)
家畜育種	77	(H22-30)パークシャー種における輸入トウモロコシから飼料米への全量代替給与技術の確立	22	26	独法委託	家畜育種
家畜育種	78	(H22-35)DNA情報等を指標とした種雄牛選抜の実用化	22	26	令達	家畜育種(いわて和牛)
家畜育種	79	(H23-16)生産農場におけるパークシャー種豚群の遺伝的改良システムの構築	23	27	県単研究	家畜育種
家畜育種	80	(H26-03)黒毛和種肥育期間短縮のための素牛育成期を含めた飼料給与体系の確立	26	30	県単研究	家畜育種
家畜育種	81	(H26-04)受胎性を高める新たな牛胚形態評価法の開発	26	27	県単研究	家畜育種
家畜育種	82	(H26-05)ゲノムワイド連関解析による肉用牛改良に有用なDNAマーカーの検出	26	30	県単研究	家畜育種(DNA育種基盤)
家畜育種	83	(H26-06)南部かしわ母鶏生産用ロードアイランドレッド改良のための交配選抜試験	26	29	県単研究	家畜育種
【家畜飼養・飼料研究室】						
家畜飼養・飼料	84	(H22-19)飼料作物栽培における土壌条件等に応じた減肥技術の確立	22	26	県単研究、独法委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	85	(H22-29)発酵TMR素材としての自給高タンパク質飼料の低コスト調製・給与技術の開発(乳牛・肉用牛給与)	22	26	独法委託	家畜育種,家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	86	(H23-15)乾乳期間の短縮が高泌乳牛に及ぼす影響の解明	23	26	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	87	(H24-08)オーチャードグラス中生優良品種選定試験	24	26	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	88	(H24-20)イタリアンライグラス系統適応性試験	25	27	独法委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	89	(H25-05)草地更新における除草剤処理等を活用した春期牧草播種技術の確立	25	27	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	90	(H25-16)放射性セシウム汚染草地における除染効果の検証および放射性セシウムレベルの追跡調査	25	27	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	91	(H26-07)初乳給与量等が哺育育成期乳牛の増体とその後の産乳性に及ぼす影響の解明	26	29	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	92	(H26-08)飼料畑におけるアレチウリ防除技術の確立	26	29	県単研究	家畜飼養・飼料
【外山畜産研究室】						
外山畜産	93	(H24-09)黒毛和種の妊娠中後期における冬期飼養技術の確立	24	26	県単研究	外山畜産
外山畜産	94	(H25-06)生育速度の速い草種等を用いた放牧地の春期更新・早期利用技術体系の確立	25	27	県単研究	外山畜産
外山畜産	95	(H25-07)寒冷時期生産牧草サイレージへの低温性乳酸菌添加による牧草サイレージおよび発酵TMRの品質向上技術の確立	25	27	県単研究	外山畜産
【種山畜産研究室】						
種山畜産	96	(235)黒毛和種産肉能力検定(間接法・現場後代検定)	1	30	管理運営費	種山畜産
種山畜産	97	(857)県有種雄牛の利用及び能力調査	14	30	管理運営費	種山畜産
種山畜産	98	(234)黒毛和種産肉能力検定(直接法)	S62	30	管理運営費	種山畜産

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【園芸研究室(県北研)】						
園芸(県北)	99	(H22-28)地球温暖化によるほうれんそうの高温影響評価モデルの作成	22	26	独法委託	園芸(県北)
園芸(県北)	100	(H24-11)ホウレンソウケナガコナダニの総合防除体系の確立	24	26	国庫補助	園芸(県北)
園芸(県北)	101	(H24-12)県北地域における新たなねぎ出荷体系の確立	24	26	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H24-12-1000)業務用規格に対応した栽培法の確立	24	26	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)	102	(H24-13)県北地域における無側枝性ギクの栽培技術体系の確立	24	26	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H24-13-1000)8～9月咲き無側枝性ギクの栽培技術体系の確立	24	26	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H24-13-2000)長期継続出荷のための有望品種の特性把握	25	26	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)	103	(H24-18)たまねぎ春まき栽培技術の確立	24	26	独法委託	園芸(県北)
園芸(県北)		(H24-18-1000)県北地域における適する作型開発	24	26	独法委託	園芸(県北)
園芸(県北)		(H24-18-2000)ハウスを用いた乾燥方法の開発	24	26	独法委託	園芸(県北)
園芸(県北)		(H24-18-3000)たまねぎ栽培で問題となる病害虫防除対策	26	28	国庫補助	園芸(県北)
園芸(県北)		(H24-18-4000)加工・業務用品種の特性把握	26	27	民間委託	園芸(県北)
園芸(県北)	104	(H26-09)生食用露地ほうれんそう栽培法の確立	26	28	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)	105	(H26-18)ほうれんそう等のルテイン機能性表示に向けた実証研究	26	27	国庫補助	園芸(県北)、作物(県北)
園芸(県北)		(H26-18-1000)ほうれんそうのルテイン機能性表示に向けた実証研究	26	27	国庫補助	園芸(県北)
園芸(県北)		(H26-18-2000)アワのルテイン機能性に関する研究	26	27	国庫補助	作物(県北)
【作物研究室(県北研)】						
作物(県北)	106	(H22-22)いわて雑穀生産・販売戦略を支援する雑穀優良種子の生産	16	30	令達	作物(県北)
作物(県北)	107	(H24-10)雑穀の機械移植法の開発	24	26	県単研究、 民間委託	作物(県北)
作物(県北)	108	(H26-11)県北・沿岸地域の生産性・収益性の高い組織営農モデルの育成	26	30	県単研究	作物(県北)、園芸(県北)、経営
作物(県北)		(H26-11-1000)寒冷地組織営農における実需ニーズに対応する園芸生産技術の確立	26	30	県単研究	園芸(県北)
作物(県北)		(H26-11-2000)県北・沿岸地域における低コスト稲作技術の確立	26	30	県単研究	作物(県北)
作物(県北)	109	(H26-10)雑穀の高付加価値化に向けた機能性成分の高い品種育成と低コスト栽培技術の開発	26	30	県単独、 民間委託	作物(県北)
作物(県北)		(H26-10-1000)機能性成分の高い雑穀品種育成	26	30	県単独、 民間委託	作物(県北)
作物(県北)		(H26-10-2000)低コスト・安定多収栽培に向けた新たなアワ栽培技術の確立	26	27	県単独、 民間委託	作物(県北)

(3) 平成27年度試験研究を要望された課題とその措置一覧

1 要望課題一覧

連番	部会	要望機関	要望課題名	担当研究室 ○主査	措置 区分
1	農産	全農岩手県本部	水稲乳苗移植栽培技術の確立による稲作コスト低減	プロジェクト推進室	A1
2	農産	中央農業改良普及センター(県域) 盛岡農業改良普及センター 一関農業改良普及センター	鉄コーティング湛水直播栽培の安定化に向けた技術体系の確立	○プロジェクト推進室 技術部作物研究室 環境部病理昆虫研究室 環境部生産環境研究室	A1 B C
3	農産	農産園芸課	稲作生産コスト低減に向けた経営規模・形態別の経営モデルの提示	農業経営研究室	A1
4	農産	1. 全農岩手県本部 2. 遠野農林振興センター 3. 農業改良普及センター (県域・地域・盛岡・八幡平・宮古)	鳥獣害対策について	研究企画室	D
5	農産	中央農業改良普及センター(県域)	収量性・食味・耐倒伏性・直播適性等に優れた主食用品種(中生)の開発	○作物研究室 プロジェクト推進室	B A1
6	農産	八幡平農業改良普及センター	多収で倒伏に強い早生の飼料用米専用品種の開発	○作物研究室 県北作物研究室	B D
7	農産	県南広域振興局農政部	「同一品種」(ひとめぼれ、「コシヒカリを超える新品種」)で熟期が異なる系統の開発	○作物研究室	D B
8	農産	農産園芸課	「コシヒカリ」を超える極良食味品種の食味の特性を最大限に発揮する栽培適地の明確化	○作物研究室 生産環境研究室	A1 A2(H28)
9	農産	中央農業改良普及センター(地域)	寒冷地大豆栽培における摘心技術の適応性	○作物研究室	B C
10	農産	中央農業改良普及センター	転換畑における小麦の施肥基準の策定	○生産環境研究室	A1 D
11	農産	中央農業改良普及センター(県域)	低pH 土壌における小麦の効率的な窒素施肥体系の確立及び土壌改良効果の解明	○生産環境研究室	D C
12	農産	中央農業改良普及センター(県域)	土壌養分の簡易な分析手法の確立	○生産環境研究室	B
13	農産	盛岡農業改良普及センター	小麦新品種「銀河のちから」の赤かび病防除体系	○病理昆虫研究室 作物研究室	A1
14	農産	盛岡農業改良普及センター	大豆の晩播栽培における病害虫の適期防除	○病理昆虫研究室	D A1 A2(H28-)
15	園芸	中央農業改良普及センター(県域)	JM7台利用樹の樹勢衰弱原因の究明	○果樹研究室	C A2(H28-)
16	園芸	二戸農業改良普及センター	防霜スプリンクラーを活用した果樹の安定栽培	○果樹研究室	D
17	園芸	中央農業改良普及センター	ぶどう「サニールージュ」の収量構成要素の検討	○果樹研究室	A1 A2(H28-)
18	園芸	中央農業改良普及センター(県域)	りんご園地における草生栽培実施時のりんご樹へのハダニ類発生状況とりんご生育に対する影響	○病理昆虫研究室 果樹研究室	D C A2(H28-)
19	園芸	中央農業改良普及センター	ぶどうの防除体系の検討	○病理昆虫研究室	A1 D A2(H28-)
20	園芸	中央農業改良普及センター(県域)	主要果菜品目における施肥基準の検証	○産環境研究室	C A1 B
21	園芸	中央農業改良普及センター(県域)	なすの鮮度保持方法の確立	○産環境研究室	A1
22	園芸	大船渡農林振興センター	トマトの少量培地養液栽培技術の確立(アイメックシステム)	○南部園芸研究室	D
23	園芸	大船渡農業改良普及センター	アイメックシステム(少量培地による養液栽培)を用いたトマトの高品質・周年生産技術の確立	○南部園芸研究室	D

連番	部会	要望機関	要望課題名	担当研究室 ○主査	措置 区分
24	園芸	農産園芸課	キャベツの収穫・運搬作業における機械化体系の開発	○県北研究所園芸研究室	D
25	園芸	八幡平農業改良普及センター	キャベツ長期安定出荷技術の確立	○県北研究所園芸研究室	A1
26	園芸	中央農業改良普及センター(県域) 八幡平農業改良普及センター 久慈農業改良普及センター	ほうれんそうにおける害虫防除対策	○県北研究所園芸研究室	A1 B D
27	園芸	農産園芸課	ほうれんそう収穫補助作業機の開発	○県北研究所園芸研究室 農業経営研究室	D A1
28	園芸	八幡平農業改良普及センター	収穫機械導入、調製作業の外部化を取り入れた、ほうれんそうの大型経営モデルの策定	○県北研究所園芸研究室 農業経営研究室	A1 D
29	園芸	農産園芸課	りんどう需要期(盆・彼岸)向け品種の安定出荷に向けた栽培技術の確立	○野菜・花き研究室	A2(H28-) D B
30	園芸	奥州農業改良普及センター	りんどう黄化えそ症状の対策の確立	○野菜・花き研究室	A2 (H28-)
31	園芸	JA全農いわて	岩手県産りんどう・小菊の収穫後の品質保持技術の確立	○生産環境研究室	A1
32	園芸	中央農業改良普及センター(県域)	りんどう新品種の適正な施肥量の検討	○生産環境研究室	A1
33	園芸	中央農業改良普及センター(県域)	イチゴ炭そ病伝染経路の解明と防除方法の確立	○病理昆虫研究室	C A1
34	園芸	中央農業改良普及センター(県域)	ネコブセンチュウ等害虫総合防除体系の確立	○病理昆虫研究室	A1
35	畜産	岩手県畜産協会	ホルスタイン経産牛の分娩間隔の長期化の原因究明と対策について	○家畜飼養・飼料研究室	D A1
36	畜産	岩手県畜産協会	乳中体細胞数の増加を検知する簡易的な検査法の確立	○家畜飼養・飼料研究室	D
37	畜産	中央農業改良普及センター(地域)	子実用とうもろこしの栽培と利用技術の確立と経済性の検討	○家畜飼養・飼料研究室	D

【措置区分】 A1:次年度実施予定 A2:○○年度実施予定(実施予定年度を記載) B:現在実施中
C:既知見あり D:実施できない

5 共同研究等の推進

(1) 食料生産地域再生のための先端技術展開事業(委託)

課題名	委託元	研究期間	研究の内容	担当研究室
被災地の早期復興に資する果樹生産・利用技術の実証研究	果樹研究所(*)	H24～26	レッドカーランツ及びカシスの栽培技術の確立	果樹
施設園芸栽培の省力化・高品質化実証研究	野菜茶業研究所(*)	H24～26	トマト低段栽培の周年高品質多収のための環境制御と群落管理技術の構築(インタープランティング技術)	南部園芸 野菜花き
中小区画土地利用型営農技術の実証研究	東北農業研究センター(*)	H25～29	中小区画水田における土地利用型作物の安定生産技術及び地域の気象条件を生かした加工品開発により収益性の向上を図る実証研究	プロジェクト推進室 農業経営 作物(技術部) 生産環境
技術・経営診断技術開発研究	中央農業総合研究センター(*)	H25～29	実証研究において現地実証された先端技術の有効性を導入効果について分析し、被災地の農業経営の将来像を改善するとともに、開放型研究拠点(オープンラボ)を整備・運営し、技術展示や情報共有を図る	研究企画室 農業経営
中山間地域における施設園芸技術の実証研究	農林水産技術会議事務局	H24～29	木骨ハウスや木質資源を活用した低コスト暖房、ICT導入による分散施設の効率的な管理などによる、中山間地域に適用性の高い施設園芸技術を構築する実証研究	南部園芸 野菜花き
ブランド化を促進する果実の生産・加工技術の実証研究	農林水産技術会議事務局	H24～29	リンゴの早期成園化技術、北限のユズの栽培技術の構築と加工品開発、ブドウの新品種導入、加工品開発、省力栽培技術などによる、付加価値の高い果実の生産・加工技術を構築する実証研究	果樹
ブランド化を促進する野菜の生産・加工技術の実証研究	農林水産技術会議事務局	H24～29	露地キュウリと冬春キャベツによる高収益栽培体系の確立、水稲育苗施設を用いたパブリカの高品質生産技術、省力的なトマト栽培技術などにより収益性の高い新たな営農モデルを構築し、産地ブランド化を目指す実証研究	野菜花き

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

(2) 農林水産省委託プロジェクト研究事業(委託)

課題名	委託元	研究期間	研究の内容	担当研究室
自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発	畜産草地研究所(*)	H22～26	多収でいもち病抵抗性・耐冷性・識別性を有する飼料用米品種の育成	作物(技術部)
	国立大学法人山形大学	H22～26	パークシャー種における輸入トウモロコシから飼料米への全量代替給与技術の確立	家畜育種
	畜産草地研究所(*)	H22～26	発酵TMR素材としての高タンパク質飼料の低コスト調製・給与技術の開発	家畜育種 家畜飼養・飼料
	畜産草地研究所(*)	H22～26	持続的な飼料生産のための土壌診断に基づく肥培管理技術の高度化と施肥支援ツールの開発	家畜飼養・飼料
農林水産分野における地球温暖化対策のための緩和及び適応技術の開発	(独)農業環境技術研究所	H22～26	果樹園における剪定枝チップ等の施用の影響解明	果樹
農林業に係る気候変動の影響評価	(独)農業環境技術研究所	H25～27	温暖化が野菜生産に及ぼす影響評価(ホウレンソウ生育・遮光管理法高温影響評価)	園芸(県北研)
実需者等のニーズに応じた加工適性と広域適応性を持つ大豆品種等の開発	(独)作物研究所	H26～30	大豆有望系統の黒根腐病に対する抵抗性の判定	作物(技術部)

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

(3)農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業委託事業(委託)

課題名	共同研究機関 (筆頭が中核機関)	研究期間	研究の内容	担当研究室
東北・北陸地域における新作物開発によるタマネギの端境期生産体系の確立	(独)東北農業研究センター、東北農業研究センター(*)、山形県、富山県、弘前大学	H24～26	1-(5)大規模畑作地帯を想定した栽培技術の開発 2-(2)望ましい干渉条件の検討	園芸(県北研)
転炉スラグによる土壌pH矯正を核としたフザリウム性土壌病害の耕種防除技術の開発	(独)東北農業研究センター、(地独)青森県産業技術センター、宮城県、福島県、東京農業大学	H24～26	1-(1)転炉スラグの効率的な施用によるホウレンソウ萎縮病の被害軽減技術の開発と実証	病理昆虫
「ウリ科野菜ホモブシス根腐病被害回避マニュアル」に基づいた予防的な防除体系の実証	(独)東北農業研究センター、公立大学法人秋田県立大学	H26	「育苗施設における汚染実態の把握および伝染経路遮断技術の開発」において、土壌診断結果に基づく汚染土壌移動防止の対策の導入を行う。	病理昆虫
ひとめぼれゲノム資源を活用した重要遺伝子同定と実用品種の育成	公益財団法人岩手生物工学研究センター	H26	(1)「ひとめぼれ順同質遺伝子系統(中間母本)間の交配による遺伝子集積」において、4遺伝子導入「スーパーひとめぼれ」の品種登録申請をする。 (2)「新たに同定した重要形質遺伝子領域導入ひとめぼれの育成」において、重要形質を付与したひとめぼれ準同質遺伝子系統を育成する。	作物(技術部)
耐冷性やいもち病を強化した東北オリジナル業務・加工用多収品種の開発	(独)東北農業研究センター、(地独)青森産技、秋田農総試、山形農総セ、福島農総セ	H26～30	(1)「地域適応性検定、岩手県(直播)」では鉄コーティング・湛水表面直播検定技術を開発し、育成系統の直播適性を評価 (2)「東北地域耐冷性新基準品種」を用いて育成系統の評価を行う。	作物(技術部)
地域資源を活かし、気候変動に対応したブドウ新品種の早期育成と気候変動影響評価(ブドウ系適)	(独)果樹研究所、山梨県、福岡県、愛媛県農林水産研究所、鹿児島県農業開発総合センター	H26～30	(1)選抜系統「山梨48号」の岩手県(東北地域)における地域適応性の解明において、試験栽培により選抜系統の特性評価を行う。 (2)新規需要を生み出す優良赤ワイン系統の選抜において、岩手県内実需者と共に選抜系統のワイン品質および岩手県への適応性評価を行う。	果樹

(4)研究成果最適展開支援事業((独)科学技術振興機構、委託)

課題名	共同研究機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
(育成研究) 長日要求性素材を利用した極晩抽性ハクサイの安定生産技術の確立	東北農業研究センター(*)、岩手大学、サカタのタネ	H24～27	選抜系統F ₁ 組合わせを用いた新作物の開発	野菜花き

(5) その他独法等からの委託(10/10委託)

事業・課題名	共同研究機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
受託研究	作物研究所(*)	H23～30	育成地等からの麦類育成系統の耐寒雪性圃場検定	作物(技術部)
受託研究	東北農業研究センター(*)	H24～27	イタリアンライグラスの系統適応性特性検定試験	家畜飼養・飼料
受託研究	生研センター(*)	H25～26	小型幹周草刈機のわい化リンゴ園での実証試験	果樹
受託研究	生研センター(*)	H26	雑草多発生圃場用除草装置の実証試験	プロジェクト推進室
受託研究	生研センター(*)	H26	不耕起トウモロコシ播種機の現地適応試験	家畜飼養・飼料

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

(6) 民間委託試験(10/10委託)

事業名・課題名	相手方	研究の内容	担当研究室
農薬及び植物調節剤等の効果検定試験	(一社)岩手県植物防疫協会	(社)日本植物防疫協会からの委託	病理昆虫、園芸(県北研)、作物(県北研)
		(社)日本植物調節剤研究協会からの委託	作物(技術部)、果樹、家畜飼養・飼料、作物(県北研)
肥料の効果等に関する試験	岩手県施肥合理化協議会	(対象作物) 水稲、水稲(育苗)、大豆、りんご、ピーマン、キャベツ(育苗)、りんどう、小ぎく	果樹、作物(技術部)、野菜花き、生産環境、作物(県北研)、園芸(県北研)

(7) (公財)岩手生物工学研究センターとの共同研究

研究課題名	生工研担当	研究期間	研究の内容	担当研究室
水稲における重要形質のゲノム育種法の開発	ゲノム育種研究部	H26～30	生工研と共同で遺伝子解析に基づくDNAマーカーの開発及びそれらを用いた岩手オリジナル水稲品種の育成	作物(技術部)
リンドウ優良品種育成支援技術の開発 リンドウの安定生産に寄与する生理・生態の解明	園芸資源研究部 (育種栽培技術開発チーム)	H26～30	純系や倍数性を利用した育種技術及びDNAマーカーの開発と新品種育成への応用 越冬性向上や生育調節に係る技術開発及び難培養性系統の培養増殖法開発	野菜花き
現場ニーズに対応した実践的 植物病害防除技術の開発	園芸資源研究部 (植物病態分子研究チーム)	H26～30	リンドウこぶ症関連ウイルス(GKaV)とこぶ症発症との因果関係の解明 分子生物学的な病害虫診断技術を利用した新たな病害虫防除システムの構築	病理昆虫 野菜花き
農林水産物の機能成分解明と活用	生物資源研究部	H26～30	雑穀の在来系統群から抽出した機能成分の同定と評価及び高付加価値を有する雑穀オリジナル品種の育成	作物(県北研)

(8) 他の公設試との共同研究

課題名等	相手方	研究期間	担当研究室
ワイン専用ぶどう新系統の醸造特性評価	工業技術センター	H6～	果樹
県産小麦品種の加工特性評価	工業技術センター	H7～	作物(技術部)
醸造用水稲品種の開発	工業技術センター	H8～	作物(技術部)

(9) AFR(岩手農林研究協議会)研究会

ア 研究会

名称	構成	研究期間	担当研究室
1 岩手育種談話会	◎岩手大学農学部・教育学部、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、岩手生物工学研究センター	H10～	作物(技術部)
2 水稲栽培研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	H11～	作物(技術部)
3 イワテヤマナシ研究会	◎神戸大学大学院農学研究科、岩手大学農学部・教育学部、岩手県農業研究センターほか	H24～	果樹
4 リンドウ研究会	◎岩手大学農学部、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、八幡平市花き研究開発センター	H11～	野菜花き

※平成24年度協議会(11/16)において継続活動実績のある研究会に整理することを承認。これを受けて当センター職員が参加している研究会のみを掲載した。

イ AFR協議会等の開催

開催月日	場所	内容
27.3.16	(書面協議)	平成26年度岩手農林研究協議会(AFR)協議会 1 岩手農林研究協議会の活動の方向について 2 要綱の改正(案)について 3 研究データベースの構築について 4 AFRリーフレットの更新について

(10) その他共同研究

課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
肉用牛における経済形質とDNAマーカーの連鎖解析	(社)畜産技術協会	H13～	岩手県種雄牛の約300頭からなる半兄弟家系を作成し、DNAマーカーによる連鎖解析を行い、経済形質遺伝子座を明らかにする。また、遺伝的不良形質について、500頭程度の半兄弟サンプルを追加、原因領域に新たなマーカーの追加等を行い原因となる遺伝子座を明らかにする。	家畜育種
生物遺伝資源交換に関する研究協定	(独)農業生物資源研究所	H14～	植物、動物、微生物の生物遺伝資源及びDNAの相互交換	センター全体
寒冷地向けイチゴ品種の育成に関する研究	東北農業研究センター(*) (地独)青森県産業技術センター 宮城県農業・園芸総合研究所 秋田県農業試験場 山形県	H24～27	選抜初期世代から東北各地域における適応性を検定し、安定生産を可能にする寒冷地向けイチゴ品種の育成の効率化を実現する。	南部園芸
アラキドン酸生合成遺伝子の多型と黒毛和種のおいしさとの関連性の解明	畜産草地研究所(*) 茨城県畜産センター (株)J-オイルミルズ (一社)家畜改良技術研究所	H26～27	黒毛和種のアラキドン酸の生合成に関わる酵素の遺伝子多型と牛肉のおいしさの関連性を明らかにする。	家畜育種

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

(11) 産学官連携

名 称	開催年月	場 所	内 容	担当研究室
第1回 いわて産学官連携推進協議会会議	26.6.11	盛岡市 (岩手大学地域連携推進センター)	リエゾン-I研究シーズ集について(協議)	研究企画室
第2回 いわて産学官連携推進協議会会議	26.11.6	盛岡市 (岩手大学地域連携推進センター)	いわて産学官連携フォーラム開催に向けて(打合せ)	研究企画室
いわて産学官連携フォーラム	26.11.17	盛岡市 (コラボMIU 岩手大学)	研究シーズ発表による県内企業とのマッチング (事務局:岩手大学地域連携推進センター)	研究企画室

※1 平成26年度リエゾン-Iマッチングフェアでパネル等展示およびプレゼンテーションを行った研究シーズ

研究シーズ名	担当研究室
森林資源を活用した園芸施設と薪ストーブの開発(先端プロ)	南部園芸
被災地の復興を支える果樹の生産・加工技術の開発(先端プロ)	果樹
飼料用米75%代替飼料で黒豚の肉質改善	家畜育種
雑穀新品種「ゆいこがね」「キビ岩手糯1号」	作物(県北)

6 現地試験の実施

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)
転換畑大豆の高単収総合実証	矢巾町 奥州市	室岡	プロジェクト推進室 (技術部作物) (生産環境)
「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」 中小区画土地利用型営農技術の実証研究 水稲生産の省力化・低コスト化技術の実証	陸前高田市	広田・小友	
省力生産を前提にした安定多収栽培技術の実証 (大豆) (ソバ・ナタネ)	陸前高田市 大槌町	小友 浪板	
省力・低コスト収穫作業体系の実証 (水稲) (大豆) (ソバ・ナタネ)	陸前高田市 陸前高田市 大槌町	広田 小友 波板	
「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」 中小区画土地利用型営農技術の実証研究 中山間水田における畦畔法面の省力管理技術の実証研究	陸前高田市	浜田川、小友	
先端プロ:中山間水田における畦畔法面の省力管理技術の実証研究	陸前高田市	浜田川	農業経営
施肥合:いわて純情米総合実証展示圃	奥州市 奥州市 北上市 花巻市 花巻市 雫石町 八幡平市 九戸村	水沢区 胆沢区 宮野目 東和町	技術部 作物
水稲奨励品種決定現地調査 (粳)	雫石町	上野	
(粳)	紫波町	星山	
(粳)	岩手町	土川	
(粳)	花巻市	湯口	
(粳)	西和賀町	沢内前郷	
(粳)	奥州市	江刺区稲瀬	
(粳)	一関市	萩荘	
(粳)	大船渡市	日頃市	
(粳)	遠野市	上郷町	
(粳)	山田町	豊間根	
(粳)	久慈市	夏井	
(粳)	二戸市	安比	
(糯)	九戸村	荒谷	
麦類耐寒雪性特性検定試験	一戸町	奥中山	
麦類奨励品種決定調査(現地調査)	一関市 矢巾町	舞川 煙山	
大豆奨励品種決定調査(現地調査)	奥州市 盛岡市	江刺区田原 玉山区	
リンゴ育種系統の現地適応性試験	二戸市 宮古市 矢巾町 奥州市 一関市	金田一 内の沢 煙山 江刺区小倉沢 花泉町金沢	技術部 果樹
「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」 ブランド化を促進する果実の生産・加工技術の実証研究	陸前高田市	米崎町 広田町	

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)
「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」 ブランド化を促進する野菜の生産・加工技術の実証研究	陸前高田市 大槌町	竹駒 矢作 小友 大槌	技術部 野菜花き
長日要求性素材を利用した極晩抽性ハクサイの安定生産技術の確立	一関市 大船渡市	千厩町奥玉 猪川町	
リンドウ育種F ₁ 系統の現地適応性試験	一戸町 雫石町 奥州市	平糠 上野 衣川区	
リンドウ栽培安定化技術の開発 (県育成極早生品種の株養成技術の開発)	奥州市 九戸村	衣川区 江刺家	
「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」 中山間地域における施設園芸技術の実証研究	陸前高田市	米崎	技術部 南部園芸
補給型施肥がりんごの樹体生育と果実品質、土壌蓄積養分に及ぼす影響	滝沢市 花巻市	滝沢 石鳥谷滝田 石鳥谷五大堂	環境部 生産環境
リンドウ採花期間における環境にやさしい肥料の検討	八幡平市	安代	
水稲に対するケイ酸質肥料の施用効果の確認	花巻市	石鳥谷	
復旧水田での地力改善による水稲の安定生産実証	陸前高田市	竹駒、気仙、 米崎、小友、 広田	
広域的な葉いもち防除の徹底による穂いもち防除を省略したいもち病防除体系の確立	奥州市	①江刺区 (愛宕、田原、藤里) ②水沢区 (佐倉河、姉体)	環境部 病理昆虫
大豆のマメシクイガに対する効率的な防除対策の確立	①奥州市 ②花巻市	①江刺区 大豆生産組合×2組合 ②太田	
土壌酸性改良によるハウレンソウ萎凋病の発病抑制効果試験	①八幡平市	①西根	
施設栽培ピーマンにおける天敵製剤を活用した化学合成農薬削減技術の開発	①花巻市 ②奥州市 ③矢巾町	①石鳥谷町 ②水沢区、江刺区 ③室岡 (パブリカ)	
ハダニ類を主体としたリンゴ病害虫防除体系の最適化	①紫波町 ②滝沢市	①西長岡 ②中村	
りんどうこぶ症関連ウイルス(GKaV)の伝搬経路の探索	①八幡平市	こぶ症発症圃場	
新農薬の効果試験と防除指針作成	①三戸町 ②軽米町 ③岩手町 ④八幡平市 ⑤盛岡市 ⑥宮古市 ⑦奥州市 ⑧一関市	①斗内 ②晴山 ③南山方 ④松尾村 ⑤羽場 ⑥区界 ⑦江刺区、衣川区 ⑧花泉町	

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)
民間農場におけるパークシャー種豚農場改良システム	岩泉町		畜産研究所
自給飼料多給による高付加価値豚肉生産			家畜育種
飼料作物栽培における土壌条件等に応じた減肥技術の確立	滝沢市		家畜飼養・飼料
飼料畑におけるアレチウリ防除技術の確立	八幡平市		
寒冷時期生産牧草サイレージへの低温性乳酸菌添加による牧草サイレージおよび発酵TMRの品質向上技術の確立	八幡平市	上坊	外山畜産
たまねぎの新作型栽培法の確立	九戸村	江刺家	県北農業研究所 園芸
低コスト・安定多収栽培に向けた新たな雑穀栽培技術の確立	軽米町 野田村	長倉 玉川	県北農業研究所 作物
県北・沿岸地域における低コスト稲作技術の確立	二戸市	金田一	
水稻奨励品種決定調査(2)本調査②早生系統	軽米町	上館	